

## 大隈農村社会経済史料：守屋舎人日帳（一）文政 十・十一年

秀村，選三

<https://doi.org/10.15017/4403395>

---

出版情報：経済學研究. 32 (1), pp.49-104, 1966-04-25. 九州大学経済学会  
バージョン：  
権利関係：



## 大隅農村社会経済史料

守屋舎人日帳(一)——文政十・十一年

秀村選三

## 解題

社会経済史の研究にあたって、古文書・古記録の重要性は改めて説くまでもないが、古記録なかんづく日記を利用する余地は今後もなお広汎に残されているようにおもわれる。往時の日記は今日の個人的感想・批判等を録した日記と異り、生活体験を先例として自己および子孫に書き伝える意味をもち、しかも日記の性格として当然その当日もしくはきわめて近い日に書かれたので、編纂史料と異り技巧を弄することなく、生活の事実・体験・思想が素樸に書き連ねられるのが普通であるから、他の史料からは得難い生活の鼓動をぢかに聞くおもしろいのである。ことに公文書

大隅農村社会経済史料

に書かれることの少い日常生活そのもの「支配者層であれ、民衆であれ」を知るには日記にまさる史料はないであろう。しかも同時代・同一地域で他の古文書や日記などと共に残存している場合は、その日記のもつ価値は一段と高くなるし、多数の史料の織りなす複雑・多様な歴史像は事実のきびしさと面白さを如実に教えてくれるのである。

ここに刊行するのは、年来研究を続けつつある大隅国肝属郡高山郷の郷士年寄・社家頭取守屋家の幕末期の当主舎人重堯(一七九八—一八七二)の日記——文政八年(一八二五)十月十三日より明治四年(一八七二)十一月十三日に至る「日帳」で、今回は文政十年・十一年の全文を収める。今回は本誌の編集上紙面に余裕がある由で二ヶ年分を収めさせて貰ったが、今後も編集の余裕がある時に限って載せていただくつもりである。何しろ半世紀に近いものであるから、いつ果てるとも知れないが、史料の刊行にはそういう気長さも或は許されるのではないだろうか。

前述の如く舎人日帳は文政八年十月にはじまっているが、はじめの部分は虫喰・破損が相当にひどく、判読になお苦しんでいる箇所もあるので、とりあえず文政十年より刊行をはじめたのであ

第三十二卷 第一号 四九

る。機会を得て文政八・九年の部分も補充するつもりである。文政八年十月十三日より文政十三年九月十二日までが小横帳一冊になっており、表紙には「文政八年乙酉十月 日帳 守屋十太郎」とあり、左肩に朱筆で「彦」とある（十太郎は舎人の初めの名）。以下文政十三年九月廿七日より天保五年正月廿一日に至る「式」・天保六年七月廿一日よりの「参」と続くが、「参」以後は綴紐が切れ分散・錯雑した箇所も多い。一応整理・復原し、日帳残存の状況についてさきに表示したこともあるので参照されたい。<sup>1)</sup> なお文政十一年は記載のない日が相当あるが、この後は全くといってよいほど日々克明に録されているのである。

日帳の記事はおおむね一郷内に限られ、その視野は決して広いとはいえないが、しかし他の文書では知り得ない如実な記述を見出し、ことに人と人の関係、家と家の関係を通じて公私の生活、社会経済の推移を窺えるのは何んといっても大きな長所である。もちろん年度や役職在任の有無によって記載の関心も大分異なる。今回収載した文政十・十一年は舎人の三〇・三十一才の時で、さきに文政八年十月廿二日に与頭となり、以後高山郷の統治・行政に参画していたわけで、おのづから十年・十一年も郷内の

検地直竿や取納、部下り米拝借、諸種の賦課、藍作統制、采労見分、出府（「暑氣御機嫌伺、歳暮・年頭御祝儀のための」）、郷の役職者の交替などの記事が多く、また郷村統治において藩庁より派遣の郡奉行・地方検者・締方横目等の廻勤の状況や御鳥見衆・御鷹匠の出張や狩或は御留山聊止狩（聊止鷹）の札方の記事なども見える。波見浦の新左衛門・小右衛門・新五郎に関する記事も散見するが、著名な船持商人重家（しげ）のことであり注意すべきものである。<sup>2)</sup> このほか四月に行なわれる鹿屋高牧野の馬追や六月十三日高山の日新院における御弔踊・御燈炉掛ケ、九月十九日の鎗流馬なども興味深い。もっとも不明な文言——たとえば「鉄炮からくり」・「高山家督」の如き——もあって、私も全面的に解釈するには至っていない。部下り米にしても不明な点が多い。

高山郷にはこのほか舎人の弟の泰造良兼（一八〇五—一八五九）、泰造の嫡子納一郎重好（一八四二—一九二四）や宇都宮東太快哉（舎人の甥）の日記、さらに二階堂本覚院の覚書（弘化二年—安政五年）などあり、郷内の多数の古文書と相俟って多面的に幕末——明治前・中期の一郷村の動向を如実に知ることが出来る。この郷の研究は薩摩藩の基礎構造を知る上に、一つの試掘坑と

なるようにおもわれる。したがって此等の日帳類を刊行することは長い間私の夢でもあった。根気のいる仕事であるが、許さるれば完成の日も与えられるであらう。

注(1) 秀村、近世日本雇用史資料——その四、大隅国高山郷守

屋舎人日帳——(経済学研究第二八巻第六号)解題。

(2) 松下志朗、幕末に於ける薩藩の海運について(ヒストリア第四四・四五合併号)参照。

## 凡 例

一、守屋雄次郎家所蔵、文政八年乙酉十月(起)日帳〔約一六・五糶×約一二・五糶、表紙虫喰・破損あり〕のうち、文政十年・十一年の全文をおさめた。

一、変体仮名は $\text{々}$ ・ $\text{ハ}$ ・ $\text{浅}$ ・ $\text{カ}$ のほかは平仮名に改めた。

一、異体の文字は本のほかは普通の文字に改めた。略体はおおむね原史料のままとしたが、 $\text{ハ}$ ・ $\text{休}$ (候)・ $\text{ハ}$ (郎)・ $\text{ト}$ (被)など一部を正体に改めた。なお印刷の都合で正体を略体にしたものもある(たとえば拂・傳・與・會・觸・假・處・爐など)。

一、本文中に読点(、)・並列点(・)を加えた。

一、抹消された文字は左傍に $\text{ハ}$ を付し、右傍に訂正の文字をあ

## 大隅農村社会経済史料

げた。

一、解読し難い文字には、作字してその形を挿入し、右傍に(マ)と注し、欠損の文字には□又は $\text{□}$ ・ $\text{□}$ を挿入し、間々右傍に注を加えた。

一、誤記とおもわれるもの、意味の通じないものには右傍に(マ)と注し、明かに誤記と認められたもの、または人名その他で必要なものには右傍に注を加えた。

一、黒抹の文字にはその字数だけ■を宛てた。

一、行間の後筆(朱字の書込)は本文を掲出したあと、適当な箇所に(行間書込、朱筆)として「」を付して掲出し、右肩に\*を付した。なお本文中に行間書込ある箇所を示すため、最初に④最後に⑤を付した。

## 本 文

(文政十年)

文政十年丁亥正月元日晴天

一 於地頭仮屋惣郷士出仕有之候、月番郷士年寄伊東敬藏殿・河俣竜藏殿・内之浦七郎次殿・吉井宗太郎殿、当番同役宮田十助

殿・日高直助殿・市来連右衛門殿・拙者、横目宇都宮休藏殿・  
児嶋孫八殿ニ而候事

一 横目児玉次郎兵衛代リ井野廻リ切通平□代リ、寄浦役日高善  
之進代リ、檣掛成合城之助・柿元万右衛門代リ、新留村庄屋小  
牧惣右衛門代リ、人柄相調差出候、当番同役宮田氏・日高氏・  
市来氏・拙者<sup>(由カ)</sup>□会之事

一 御街頭横目児玉権之助事、□初被仰付ニ付而も、代リ役人柄  
相調差出候様、郷士年寄衆が被仰付調書相認候、当番同役日高  
直助殿・宮田氏・市来氏・拙者出会之事

亥正月三日 晴天

一 夜半時分月番郷士年寄伊東敬藏殿宅へ罷出候様被仰越、差越  
候処ニ、此節直竿方御郡奉行石原伝兵衛殿・蔵方目付佐土原六  
郎殿・書役有馬仁之助殿其外蒔見式人、筆算四人、竿取式人、  
明日日早天内之浦が波見村に御差入有之段、先状相達候ニ付、  
早々差越候様被仰付、直に罷帰、波見村に差越候、郷士年寄内  
之浦七郎次殿・与頭拙者・郡見廻日高曾兵衛殿・書役大田善兵  
衛殿・清水地藏院・小野原芳山・日高曾太郎同道之事、

亥正月四日 半天

一 取払矢神善左衛門・料理方町伊太郎・早天所会所に罷出候  
事、

一 宿手当并賄方手手当相済、波見浦新右衛門所に立宿申付、相  
<sup>(待カ)</sup>持居候処ニ、舟路ニ而九ツ時分御郡奉行衆波見浦に着船、立宿  
に差寄無之、銘、御旅宿に被成着候、七ツ時分御郡奉行衆所に  
御付役衆惣而相招賄差出候、郷士年寄内之浦氏・与頭拙者・郡  
見廻日高氏・書役大田氏・清水氏・小野原氏・日高氏・庄屋峯  
崎平八差越候、

亥正月五日半天

一 直竿方掛郷士年寄内之浦七郎次殿・波見村庄屋峯崎平八・野  
崎村庄屋福山金右衛門・新留村庄屋小牧惣右衛門誓詞有之候  
事、

一 明六日が御竿被召入筈ニ而候間、抱地井永作持合之方、名書  
を以今晚が罷出候様可被申達旨、当番同役方に問合申越候事、

亥正月六日半天

一 今日と半天ニ而取止之事候間、明日と半天ニ而も御竿可被召  
入段、又、当番同役方に問合候事、

亥正月七日半天

一 波見村之内抱地・永作三拾九坪御竿被召入候事、

亥 正月八日曇天

一 波見村之内御檢地有之候事、

亥 正月九日晴天

一 御郡奉行石原伝兵衛殿・藏方目付佐土原六郎殿・書役有馬仁之助殿・蒔見小城勇右衛門殿・金丸<sup>(十九)</sup>兵衛殿・筆算池田主左衛門殿・<sup>(精力)</sup>榑木喜早次殿・竿取有屋田清太夫殿・赤崎八郎殿・郷士年寄内之浦七郎次殿・与頭拙者・郡見廻日高曾兵衛殿・書役大田善兵衛殿・日高曾太郎同船ニ而九ツ時分飯ヶ谷に着舟、直ニ<sup>(分)</sup>御見<sup>(分)</sup>ニ而山之下迄相濟候、暮時分邊田旅宿に着いたし候事、

亥 正月十日晴天

一 邊田方限御見分有之、相濟候、垂水御屋敷枡場御見分ニ付、

垂水物奉行音野伝兵衛殿被罷出候事、

一 暮時分波見に出、銘々本旅宿に着いたし、今晚御郡奉行衆并

御付役衆・所付役・庄屋在役迄垂水物奉行が賄有之候事

亥 正月十一日半天

一 波見村御見分有之、九ツ過相濟、平後園立宿ニ而中飯相仕舞、野崎村に宿移いたし候事、

大隅農村社会経済史料

亥 正月十二日半天

一 去西秋前田村納高部下り取上米御地頭飯屋に格護有之候処ニ、去戌年種子飯料用と諸在が御拝借之願申出、御免被仰付、掛役立会相渡置候処ニ、返上米糶ニ而差上度願之趣有之、掛役連名を以申出候、部下り方掛地方検者里村半之丞殿・郷士年寄内之浦七郎次殿・与頭拙者・郡見廻日高曾兵衛殿ニ而候事、

一 賄之間天氣不宜候故、御檢地休<sup>(三)</sup>之事、

亥 正月十三日晴天

一 野崎村御檢地有之、拙者ニも出張候事、

亥 正月十四日晴天

一 野崎村御檢地有之、野方が新留村尾之下に致宿移候事、

一 明日新留村御見分ニ付、郷士抱地持之人數に立会候様被申達度段、当番同役方に申越候事、

亥 正月十五日半天

一 新留村之内御見分有之候得共、拙者不差越候、尤明日御見分

ニ付、抱地主罷出候様名書を以当番同役方に申越候事、

亥 正月十六日晴天

第三十二卷 第一号 五三

一 新留村原御見分有之、拙者ニ淺相付候、抱地持銘ニ罷出候事、

亥正月十七日晴天

一 新留村永山方限御見分有之候、拙者相付、抱地持罷出候事、

亥正月十八日晴天

一 本城方限御見分ニ而今晩本城に泊り候事、

亥正月十九日晴天

一 本城御見分ニ而尾之下本宿に罷歸候事、

亥正月廿日晴天

一 崎山近邊御見分有之候事、

亥正月廿一日晴天

一 新留村水流間御見分有之候得共、拙者病ニ而不出初候事、

亥正月廿二日晴天

一 新留村石ヶ崎近邊御見分有之、拙者ニ淺致<sup>(勳力)</sup>出初候事、

亥正月廿三日晴天

一 前田村寒水山の上開木之邊迄御見分有之候、今日より前田村に

宿移之筈候得共、宿相少、新留村に滞宿いたし候事、

亥正月廿四日晴天

一 前田村御見分有之候得共、拙者事ニ尾之下所会所に罷居候事、

亥正月廿五日晴天

一 九ツ過前田村御見分相濟、富山村に宿移いたし候事、

亥正月廿六日晴天

一 富山村笠野方限御見分有之、拙者致<sup>(勳力)</sup>出初候事、

一 明廿七日論地移之筈候得共、吟味相替、中原移之筋ニ相決候

事、

亥正月廿七日晴天

一 富山村并宮下村御見分相濟、後田村中原に宿移いたし候事、

亥正月廿八日晴天

一 宮下村庄屋吉田藤兵衛殿并後田村在役志人朝之間誓祠有之、

御見分休<sup>(勳力)</sup>之<sup>(勳力)</sup>事、

一 今晩神<sup>(勳力)</sup>有<sup>(勳力)</sup>之、拙者致暇罷歸居候処ニ、郡方御書役有馬仁之

助殿・蒔見小城勇右衛門殿・金丸十兵衛殿・筆算大窪市之進殿

・池田主左衛門殿・<sup>(勳力)</sup>榎木喜早次殿・竿取有屋田清太夫殿・赤崎

八郎殿・郷士年寄内之浦七郎次殿・郡見廻日高曾兵衛殿同道ニ

而被差越、拙者宅へ御立寄有之、酒振舞候事、

一 夜飯・酒・宮ニ而差出筋ニ而所々仕出之事、

亥二月四日晴天

一 金丸十兵衛殿・池田主左衛門殿・<sup>(橋カ)</sup>榎木喜早次殿・有屋田清太夫殿・赤崎八郎殿宮々被差越、拙者宅に被泊候ニ付、夜明候而同道いたし中原に差越候事、

一 井手之上方限御見分ニ而拙者致出□候事、  
亥二月五日半天

一 中村方限御見分有之候処ニ、日置役人々長雲寺ニ而賄有之、御郡奉行衆并付役・所付役・庄屋・在役迄野方婦掛立寄、馳走有之候事、

一 山下之上方限御檢地有之候処ニ、雨降掛、八ツ時分止ニ而候、今晚拙者罷帰候事、  
亥二月六日雨天

亥正月廿九日晴天

一 中牧方限御見分有之候得共、拙者事々不致出初候事、

亥二月七日晴天

一 中牧方限御見分有之、拙者ニ淺致出初居候処ニ、内用ニ付宇都宮東覚院殿方々罷帰具候様被申越、暇申出九ツ時分野方々直

一 今朝中原に差越候得共、雨天ニ而休ミ之事、

亥二月朔日半天

一 中牧方限御見分有之候得共、拙者事々不致出初候事、<sup>(働カ)</sup>

一 移牧々瀬戸宇治之邊迄御見分有之、拙者出張候事、  
亥二月八日晴天

一 中牧方限御見分有之、拙者ニ淺致出初居候処ニ、内用ニ付宇都宮東覚院殿方々罷帰具候様被申越、暇申出九ツ時分野方々直

一 荒平々岩下・中原方限御見分有之、岩下ニ而賄有之□<sup>(候)</sup>、拙者出張候事、  
亥二月九日曇天

亥二月二日雨天

一 早朝、中原に差越候得共、雨天ニ而休ミ之事、

一 岩屋行分々石之脇迄御見分有之、石之脇ニ而嶋津頼母殿役人々賄有之、拙者ニ淺相動候事、  
亥二月十日半天

一 井手之上方限御見分有之、拙者出張候事、

一 中途御見分ニ而片野に宿移有之候共、拙者事々兩三日暇いたし罷帰候、

亥二月三日晴天曇天

一 井手之上方限御見分有之、拙者出張候事、

一 中途御見分ニ而片野に宿移有之候共、拙者事々兩三日暇いたし罷帰候、

亥二月十二日晴天

- 一 直竿方掛郷士年寄内之浦七郎次殿ハ急成御用談之儀有之向ニ而、詰所ハ罷出候様被仰越、暮時分宿元を出片野ハ差越候事、

亥二月十三日平天

- 一 大窪御見分ニ而片野ハ永野ハ宿移有之候事、
- 一 一昨十二日鹿老丸取得、今晚御郡奉行衆御旅宿ニ而料理有之、都而打寄之事、

亥二月十四日曇天

- 一 鍵ハ永野原御見分有之、拙者相勤候、

亥二月十五日雨天

- 一 雨天ニ而御見分無之候事、

亥二月十六日雨天

- 一 雨天ニ而御見分無之、拙者不快ニ而宿見舞ホも不相調候事、

亥二月十七日平天

- 一 笹ケ尾之前御見分有之候得共、拙者事ハ不快ニ而麓ハ罷帰候事、

亥二月廿日晴天

- 一 御用談之儀有之候ニ付、旅宿ハ罷出候様、若病氣快氣致不候

ハ、同役市来氏被差越候様被申越旨、永野詰郷士年寄内之浦七郎次殿ハ被仰越、七ツ時分永野ハ差越候事、

亥二月廿一日雨天

- 一 抱地直竿内踏付之節、宇都宮東覚院・吉川孫太郎ハ地面入組之書物被差出、同役中吟味之上、双方札方ハいたし候処ニ、吉川孫太郎申分無之、郷士兩人を以書物取下之願申出、右ニ付宇都宮東覚院ハ書物取下之願被申出、双方書物下置候処ニ、今朝直竿方掛郷士年寄内之浦七郎次殿ハ右地面取扱之相談被相掛候ニ付、右地面之儀ハ、内踏付之節、双方書物被差出、私共同役中吟味之上札方仕候処ニ、書物取下之願被申出、双方書物下置申候、私無調法者之事御座候得ト、ケ様之吟味相調不申候ニ付、御郡奉行石。原伝兵衛殿ハ暇申出罷帰、役儀御断可申上候間、右通御心得可被下段、内之浦七郎次殿ハ申置、直ニ石原伝兵衛殿ハ御暇申出候処ニ、入組之次第申出候様被仰付、札方之成行委細申上候処ニ、先不罷帰罷居候様被仰付候ニ付、御郡方書役有馬仁之助殿ハも右之咄申上相勤居候事、

- 一 於日新院例式踊有之筈ニ而、御郡方書役衆以下所付役出張有之候得共、雨天ニ而相延、於米山寺踊替為被成御見物由候事、

一 御郡奉行衆并御藏方目付衆・拙者・所書役清水地藏院□留守いたし候事、

亥二月廿二日晴天

一 於日新院今日踊有之、御郡方書役衆以下出張有之候事、

一 御奉行衆并御藏方目付衆・拙者・取払矢神善左衛門留守之事、

一 宇都宮東覚院・吉川孫太郎地面相片付迄之間、致遠慮度相考、今晚暇申出罷歸、掛同役市来運右衛門殿に差越在勤相願候得共、先達而病氣快氣無之由ニ而勤方難成候ニ付、相動具候様相談之趣承候事、

亥二月廿三日晴天

一 早朝永野に差越、掛同役市来氏病氣快氣無御座候故、又候私罷出候段、御郡奉行衆に申出候事、

一 永野原に鳥越之前方限御見分有之、拙者相動候事、

亥二月廿四日晴天

一 小森之頭にいなひ塚之邊迄御見分有之、拙者相動候事、

亥二月廿五日半天

一 役所に小森之前迄御見分有之、拙者出張候事

大隅農村社会経済史料

亥二月廿六日晴天

一 宇都宮東覚院・吉川孫太郎地面入組之儀ニ付、御前帳ニ而御札有之候処ニ、杉山之儀に宇都宮東覚院地面と相見得、吉川孫太郎地面之儀に鳥越之前ニ有之候、然処御郡奉行□□仰付候に入組之地面相糺候処ニ其□□見通之事ニ而候間、所ニ而相片付、見分申出候様被仰付候、御郡奉行石原佐兵衛殿・御藏方目付佐土原六郎殿・郡方御書役有馬仁之助殿・蒔見小城勇右衛門殿・金丸十兵衛殿・筆算大窪市之丞殿・秋山庄左衛門殿・池田主左衛門殿・<sup>(楊方)</sup>橘木喜早次殿・竿取赤崎八郎殿・有屋田清太夫殿・郷士年寄内之浦七郎次殿・伊東敬藏殿・与頭拙者・宮田十助殿・郡見廻大窪郷八殿・庄屋矢神勇右衛門殿ニ而候、宇都宮連淨院・吉川孫太郎罷出候事、

一 右双方地面共ニ御郡奉行衆御趣意通吟味相決、吉川孫太郎・宇都宮連淨院に申付候、郷士年寄内之浦七郎次殿・伊東敬藏殿・与頭宮田十助殿・拙者ニ而候事、

亥二月廿七日晴天

一 道中近邊御見分有之、拙者相動候、

一 郷士年寄内之浦七郎次殿并拙者・宇都宮連淨院罷出候様御郡

第三十二卷 第一号 五七

那方書役衆が被仰付、書役衆御旅宿に罷出候処ニ、山下之上地面入組之儀ニ付、以後難洪申間敷候間、郷士年寄・与頭・郡見廻宛書ニ而宇都宮東覚院(宇都宮)・連淨院連名を以差出、郷士年寄・与頭・郡見廻連名ニ而、致次書差出候様被仰付候、吉川孫太郎方(吉川)に五左衛門連名ニ而右同様差出候様、今日御見分先ニ而被仰付候事、

亥二月廿八日半天

一 鳥越之前が小牧之邊御見分有之、拙者相勤候、今日迄野方惣仕舞之事、

亥二月廿九日晴天

一 鶉戸參詣有之候、御郡奉行石原伝兵衛殿・御郡方書役有馬仁之助殿・蒔見小城勇右衛門殿・金丸十兵衛殿・竿取赤崎八郎殿・有屋田清太夫殿・郷士年寄内之浦七郎次殿・与頭拙者・庄屋矢神勇右衛門殿ニ而候事、

亥三月朔日晴天

一 御郡奉行衆御旅宿に都而打寄、蕎麦切差出候事、

亥三月二日晴天

一 御郡奉行衆并付役衆(余野)が波見浦に宿移有之、郷士年寄内之

浦七郎次殿・与頭拙者・郡見廻大窪郷八殿・取払矢神善左衛門殿相付差越候、所筆算四人永野が暇之事、

一 吉川孫太郎・宇都宮東覚院入組之地面相片付、以後難洪申間敷旨、双方共ニ書物を以被申出候ニ付、郷士年寄内之浦七郎次殿・伊東敬藏殿・与頭宮田十助殿・拙者・郡見廻大窪郷八殿連名之次書ニ而、御郡方書役有馬仁之助殿に差出候事、

亥三月三日半天

一 朝之間雨天ニ而波見浦に滞在有之、所役同様罷居候事、

亥三月四日半天

一 朝之間天氣宜、御郡奉行衆并付役衆船路ニ而内之浦に御越有之候、郷付役之内が陸路ニ而御帳櫃被致宰領候、郷士年寄内之浦七郎次殿・郡見廻大窪郷八殿・取払矢神善左衛門殿同道ニ而波見浦に罷帰、月番郷士年寄日高直助殿に届申出候事、

亥三月八日半天

一 後田村之内山下之上、四間・五拾九間之畑宇都宮東覚院抱地ニ而候処ニ、吉川孫太郎親亡正左衛門間違ニ而杉差入、此節惣直竿ニ付入組ニ相成、御郡奉行石原伝兵衛殿御見分之上、東覚院地面に致決定、右ニ付、杉木之儀東之方廿九間東覚院、西之

方三拾間孫太郎と致分ヶ方、以後難波申間敷旨、宇都宮東覚院

・宇都宮蓮浄院・吉川孫太郎・吉川五左衛門連名を以申出候ニ

付、郷士年寄内之浦七郎次殿・与頭拙者連名ニ而御那方書役有

馬仁之助殿に致宛書、次書相認、御地頭飯屋ニ而七郎次殿に差

出置候、当分仁之助殿内之浦詰ニ而候故、宿次を以七郎次殿に

仕出方有之筈候事、

亥三月十一日半天

一 竹木見舞迫田折右衛門代り役相調候、当番同役宮田氏并拙者

ニ而候、(運右衛門)市来氏事と病氣ニ而出会無之候事、

一 長峯□□郎事、串良郷士竹下孫市方に髻養子成之願書差出候

ニ付、当番同役宮田氏次書被相認、印形いたし候事、

亥三月十四日雨天

一 宮田氏々当番相請取、月番郷士年寄日高直助殿に届申出候事、

亥三月廿五日半天

一 四月中稚子鷹除方願次并後田村綱差見替(伊カ)右衛門代り役致調

方候、拙者并野廻り上村勇助・野元八次郎・日高金八・上田直

次郎ニ而候、

一 前田村部下り取揚米之内、諸在種子用と被仰付度段願書相

認、月番郷士年寄日高直助殿(分カ)被差廻致印形候事、

亥三月廿七日半天

一 稚子鷹除方願次今日仕出候事、

一 後田村綱差見習伊右衛門代り役調書、野廻り上村勇助を以御

場預郷士年寄吉井宗太郎殿方へ差出候、彼方か仕出有之筈候事、

一 尾之下御高札書替被下、今日野廻り上村勇助差越立替候由ニ

而、古御高札拙者方へ致持參候ニ付、請取置候、近々鹿府便か

差□筈候、

亥三月廿八日晴天

一 鉄炮からくり来ル朔日九ツ時御地頭飯屋ニ致持參候様觸召入

候、野町・新留村・前田村・野崎村之儀と銘々□□相立、当番

郡見廻方へ申越候、

一 鉄炮からくり為取納方御地頭飯屋へ出張之有度、尤締方横目

衆にも被申出給度段、御場預横目宇都宮休藏殿方へ申越候事、

亥三月晦日晴天

一 公義御尋者人相書ニ引合旅人被成改方候向ニ而、印形帳被相

認、月番郷士年寄日高直助殿被差廻候ニ付、致印形候、尤郷

士年寄・与頭・横目・郡見廻連名ニ而候事、

亥四月廿六日半天

一 前田村部下り取上米、諸在為種子用御拝借被仰付度段願申上置候処ニ、都而御拝借御免被仰付候ニ付、先達而諸在に配当有之、印形帳被取置候由ニ而、届書相認被差廻致印形候、詰居地方檢者衆并郷士年寄内之浦七郎次殿・与頭拙者・横目兒玉權之助殿・郡見廻日高曾兵衛殿連名ニ而候、

亥五月十六日晴天

一 同役宮田十助殿に当番次渡候事、

一 新留村に拾部拾ヶ年三ヶ年引寄部下り之願申出、役々吟味有之候処ニ過分之石數ニおよひ御時節柄恐多次第二候間、郡方に得内意、可<sup>レ</sup>吟味相決候、月番郷士年寄内之浦七郎次殿・日高直助殿・伊東敬藏殿・古郷士年寄市来平右衛門殿・大田善兵衛殿・当番同役宮田十助殿・拙者・横目宇都宮休藏殿・兒嶋孫八殿・兒玉權之助殿・地頭横目日高新左衛門殿・柏原伴之丞殿・口事方野元八太郎殿・日高半右衛門殿・伊東佳納次殿・口事方郡見廻石田半藏殿・郡見廻大窪郷八殿・日高曾兵衛殿ニ而候事、

亥五月十九日曇天

一 於当番同役宅致踊賦候、中哥稽古座元山之内家差支候ニ付、

柏原伴之進宅ニ而稽古有之候而可然吟味相決候、当番同役宮田氏・拙者・中哥差引伊東佳納次殿・式才小頭柏原善<sup>(右)</sup>衛門・宇都宮平六・津曲次五ニ而候、

亥六月朔日曇天

一 於弓場地例式之通御吊踊稽古相調候、当番同役宮田氏・拙者<sup>(十助)</sup>・踊<sup>(稽古)</sup>。惣差引伊東氏・哥稽古差引伊東佳納次・兒玉權之助・野元八次郎罷出候、

亥六月六日半天

一 日新院御庭普請いたし候、当番同役宮田氏・拙者・差引伊東氏罷出候、普請人数神之市・永山・八幡馬場ニ而候、  
一 御燈籠張替并御堂ふき方唐<sup>(マ)</sup>団繕方として、式才小頭四人并日高曾之進・迫田六兵衛・市来宗心召呼候事

亥六月八日晴天

一 於弓場地例式之通御吊踊稽古惣打込相調候、当番同役宮田氏・拙者<sup>(稽古)</sup>・踊。惣差引伊東氏・哥稽古差引兒玉權之助・野元八次郎・伊東佳納次罷出候事、

亥六月十三日半天

一 日新院於御庭、例式之通御吊踊相調候、当番同役宮田氏・拙<sup>(十助)</sup>

者ニ而候、

一 今晚御燈籠上ケ例式之通首尾能相濟候、当番郷士年寄内之浦七郎次殿・当番同役宮田氏(十助)・拙者罷出候、

一 踊稽古惣差引吉井孫助殿事、我々先同役方ノ頼ニ付、被相動居向ニ而、断書物当番同役宮田氏(十助)に被差出候ニ付、今一往勤方有之度再三申入候得共、請合無之候故、日高新左衛門に名代申付置候、代リ□儀(十助)に宮田氏兩人ニ而難相決候故、日高八郎太殿杯出会之上、吟味可致申談置候処ニ、今日吉井氏詰込、被相動候、

亥六月十七日半天

一 御用談之儀有之候間致出会候様、当番郷士年寄内之浦七郎次殿(十助)・宮田氏・拙者兩人に被申越、致出会候処ニ、踊稽古惣差引相動候様伊東佳太郎に被達候得共、踊方之儀不案内ニ而難相動候ニ付、吉井氏相願置候間、得其意候様被申達候、郷士年寄日高直助殿(十助)も同席ニ而候、

亥六月十九日半天

一 昨十八日波見浦に浦廻検師御差入有之候由ニ而、今日五ツ時浦に差越候様、月番郷士年寄内之浦七郎次殿(十助)が通達有之候得

大隅農村社会経済史料

共、拙者病氣ニ而難差越、当番同役宮田氏に相□、其訳申出候、

亥六月廿一日半天

一 淵脇権六隠居願并入部彦四郎跡付願次書相認、当番同役宮田氏(十助)が被差廻候ニ付、致印形候事、

亥六月廿五日半天

一 横目上田司事、役儀御断申出、代り役人柄致調方候、当番同役宮田氏并市来氏・拙者ニ而候、

亥六月廿六日半天

一 於御地頭仮屋矢散札書方并の張り方いたし候、当番同役宮田十助殿・拙者・取払矢神善左衛門・日高直之丞ニ而候、郷士拾五人札書方四□(尺カ)の張方として召□(呼カ)候、

亥六月廿七日雨天

一 一昨廿五日横目上田司代り役人柄相調差出置候処ニ、昨廿六日当番同役被招呼、右調書不相下候間、外ニ相調差出候様、月番郷士年寄内之浦七郎次殿(十助)が被達候段承候ニ付、致吟味候得共、外ニ引向ケ候而も差当り無之候間、調書差出置候人数之内に被仰付度段可申出相決候、当番同役宮田氏并市来連右衛門殿・日高八郎太殿・拙者出会ニ而候、

第三十二卷 第一号 六一

亥六月廿八日晴天

- 一 疫癘相流行、所中為退散矢散致執行候、当番同役宮田十助殿并日高八郎太殿・拙者、祈願伊東佳太郎殿・取払矢神善左衛門・日高直之丞ニ而候、

亥六月廿九日晴天

- 一 今朝月番郷士年寄吉井宗太郎殿に致出候様通達有之、差越候処ニ横目上田司代り人柄調方ニ付、少事を大事に申立、外ニ兩人相調差出候様被相達候、当番同役宮田氏・市来氏・拙者ニ而致承知候、

- 一 右調書之儀ニ付致吟味候処ニ、郷士年寄衆に承候迄ニ而も、其身無役ニ而可差置丈ニ而無之、横目役迎淺可相勤人柄と同役中見及居候ニ付、右之趣月番郷士年寄衆に申出候、当番同役市来連右衛門殿・宮田十助殿・日高八郎太殿・拙者出會之事、

亥六月晦日晴天

- 一 高帳押札并死除継目高帳載之願書次書相認候、当番同役市来連右衛門殿・日高八郎太殿・宮田十助殿・拙者・取払矢神善左衛門・日高直之丞・書役守屋求馬ニ而候事、

亥閏六月三日半天

- 一 池之上金助跡付願申出、当番同役市来氏に次書相認被差廻候

- 二 付、致印形、同役市来氏・宮田氏・日高氏・拙者ニ而候、

- 一 抱地惣直竿ニ付、仮目録相調、今日致印形候、郷士年寄内之浦七郎次殿・拙者ニ而候、

亥閏六月五日半天

- 一 横目上田司代り役人柄調書之内兩人、旧悪を以きず被相付、しらへ替差出候様、月番郷士年寄吉井宗太郎殿に被達、調書被相下候、当番同役市来連右衛門殿承知ニ候而致吟味、候得共、不相決、御地頭横目衆に聞合方相願候、以後致吟味答申談候、右之趣郷士年寄衆にも当番同役方に申出被置答候、当番市来氏・宮田氏・日高氏・拙者ニ而致吟味候事、

亥閏六月七日晴天

- 一 横目上田司代り役人柄調方之儀ニ付而も、聞合方不相調段、御地頭横目衆に当番同役方へ差越被取返候、右ニ付明早朝津曲周左衛門親類右田半藏・当人切通平太召呼、我々前ニ而旧悪之次第可承致吟味候、当番同役市来連右衛門殿・日高八郎太殿・宮田十助殿・拙者出會之事、

亥閏六月八日半天

一 津曲周左衛門親類右田半藏・当人切通平太召呼、旧悪之次第

承届候処ニ、我々前ニ而旧悪と難名付儀ニ候間、右之成行月

番郷士年寄吉井宗太郎殿方へ当番市来氏・拙者兩人差越申出、

右通ニ而も調替差出可申哉之旨相尋候処ニ、拙者一人ニ而も何

分難相達儀ニ候間、同役中吟味之上、何(分)可相達段被仰候、当

番同役市来氏・宮田氏・日高氏・拙者致出候事、

一 暑氣(機嫌何)御祝儀として、明後十日鹿府参上仕可申候間、通夫人馬

被仰付度(旨)、月番郷士年寄吉井宗太郎殿に申出候、

一 廻勤御横目竹之内仁三次殿、当町伊三次所に今日御差入有

之、致見舞候、

亥閏 六月十日□天

一 淺五貫文 物掛方取替

(行間書込、朱筆)

\* 「右者々九月二日致返済候、覚書之儀日高次右衛門を以相

受取、直ニ月番郷士年寄衆に返納いたし候」

一 午刻宿元致出立、月番郷士年寄吉井宗太郎殿に届申出、申刻

古江問屋に致着候、野崎村大村門鉄太郎通夫として召列候、人

馬同村畑中之次郎兵衛・同村新築坊之長袈裟直ニ暇申付候、

大隅農村社会経済史料

一 今晚順風宜敷候得共、乗合無之、出帆不相調候事、

亥閏 六月十一日晴天

一 乗合無之、古江滞在之事、

亥閏 六月十二日晴天

一 午下刻古江に帆出いたし酉刻鹿府問屋に致着候、串良郷士町

田八兵衛殿・牧野四郎大殿・阿多郷士帖佐藏右衛門殿同船之

事、

一 楮柙掛吉川五左衛門・波見村庄屋峯崎(平)八・町惣兵衛・伊太

郎・鹿府問屋に詰居之事、

亥閏 六月十三日晴天

一 午刻御(地頭力)所(地頭力)に罷出、御取次郡山五左(署)候(署)として罷

出候段、(申上荷分可申越候間)候処ニ御地頭様に可申上候、問屋に詰居候様被仰

候、吉川五左衛門同道之事、

亥閏 六月十四日晴天

一 今日御機嫌伺申上候様、御取次衆が被仰越、八ツ後御機嫌伺

申上候、

一 淺毫ノ五百文 御地頭所に

但肴一折・銘酒拾盃代

第三十二卷 第一号 六三

一 // 六百元 御地頭様ニ

但素麵壹ノ目代

右式行目録、御肴一折、御樽一荷、御素麵一台と相記候、料物之儀と杉原紙式枚ニ而包、水引ニ而纏リ御両種料・御素麵料と相記、役名・名前書記候

一 // 六百元 御取次衆ニ

但肴一折・銘酒五盃代

一 一 三百文 御取次衆ニ

但素麵五百目代

右式行料物同断

一 // 三百文 役人衆ニ

但肴一折・銘酒三盃代

一 // 式百文 役人衆ニ

但素麵三百目代

右式行料物、御両種料・御素麵料と記、御役人<sup>(衆)</sup>高山与頭守屋十

太郎と書記候、

右之通暑氣御機嫌伺として料物を<sup>(以力)</sup>進上いたし候

□暮時分矢野氏に差越、得御意候

亥聞 六月十五日晴天

一 五ツ<sup>(亥聞)</sup> 差越、得御意候

□<sup>(六)</sup> 月十六日晴天

一 □ツ時分郡方書役野津長兵衛殿・徳永源右衛門殿問合に被差越候、

一 八ツ時分詔物買方として差越候、通夫鉄太郎・波見村早右衛門召列候、

亥壬 六月十七日晴天

一 五ツ時分御取次衆御宅に差越候得共、最早御細工所に御出張有之、右座に罷出致暇候事、

一 上原庵次渡方之儀、糺方申渡置候間、早、相糺申出候様、郷士年寄方に相達候様、御取次衆が被仰付候、

一 郡方書役野津長兵衛殿七ツ時分問屋へ被参候、

亥壬 六月十八日晴天

一 七ツ書分郡方書役□□上喜早右衛門殿問屋へ被参候、

一 暮六ツ時分鹿府が出帆いたし候、下小原藏下代梅北権兵衛殿・当町惣兵衛・伊太郎同船之事、

亥壬 六月十九日半天

一 卯刻古江問屋へ着いたし、辰刻出立、罷歸候、梅北権兵衛殿

・惣兵衛・伊太郎同道ニ而鹿屋町長吉所へ立寄候事、

亥壬 六月廿日半天

一 七ツ時分古江ノ荷物相届候、

亥壬 六月廿一日

鹿府ノ罷歸候段、月番郷士年寄衆に申出候、尤上原庵次渡方

之儀、御取次衆ノ通月番郷士年寄吉井宗太郎申出候

事、

覚

亥壬 六月十日ノ同月廿日迄

日数十一日

往来

野崎村大村門

鉄太郎

右ノ此節暑氣為御機嫌伺、鹿府致参上候ニ付、為通夫右之者召

列候間、先例之通可被申付候、以上

与頭

守屋 十太郎 印

亥壬 六月廿一日

大隅農村社会経済史料

野崎村

庄屋衆中

亥 七月五日半天

一 高須両御藏修甫為見賦差越相勤候、高山間方下代川上喜衛

門殿・始良間方下代児玉清左衛門殿・郷士年寄代拙者・竹木見

廻石田仲太・郡見廻大窪郷八・庄屋矢神勇右衛門・吉田藤兵衛

・郡山八右衛門ニ而候、

亥 七月十一日晴天

一 月番郷士年寄内之浦七郎次殿宅に相揃、公路致見分候、西与

頭拙者并地頭横目柏原伴之進・日高新左衛門・東与頭宮田十助

殿・横目児嶋強八殿ニ而候事、

亥 七月十五日晴天

一 日新院御燈籠上ケ、例式之通首尾能相濟候、当番同役日高八

郎太殿・宮田十助殿・市来連右衛門殿・拙者致出会候事、

亥 七月十六日半天

一 例式之通調練稽古相調候、当番同役日高八郎太殿・宮田十助

殿・拙者<sup>。致出会候</sup>。市来氏事ハ出会<sup>(無之方)</sup>。柏原伴之進名代相勤候、

差出

第三十二卷 第一号 六五



亥八月廿一日

山之内休之進印

惣掛方

取払衆中

斐五貫文 亥壬六月十日惣掛方取替

内四貫九百三拾貳文

六拾四文

手形卷通  
現分(初)

右手形卷通并現分、亥九月二日触日高次右衛門を以、取払矢神善左衛門方に差遣、出入相済候、覺書之儀々右次右衛門を以、月番郷土年寄衆に致返納候、

亥七月十七日晴天

一 小普請帳書方相始、同役日高氏宅へ致出会候、当番同役日高氏・拙者、取払矢神善左衛門、書役守屋求馬・日高六太郎・日高(曾太)郎、触谷口清左衛門、寄ふれ右田仲左衛門ニ而候、

亥七月十八日晴天

一 例式之通鉄炮吟味相(廻)候、玉角伊東佳納次イタ当リニ而候、古郷土年寄山之内甚右衛門殿・吉井孫助殿・同役宮田十助殿・拙者、地頭横目柏原伴之進、ふれ谷口清左衛門ニ而候事、

一 小普請帳書方有之候、当番同役日高八郎太殿・拙者、取払矢

大隅農村社会経济史料

神善左衛門・日高直之丞、書役凶師直八・守屋求馬・日高六太郎・日高曾太郎・切通平之進・富山新十郎、ふれ谷口清左衛門ニ而候事、

亥七月十九日晴天

一 小普請帳書方いたし候、当番同役日高氏・市来氏・拙者、取払日高直之丞・矢神善左衛門・書役凶師直八・切通平之進・日高曾太郎、ふれ谷口清左衛門、寄ふれ右田仲左衛門ニ而候事、

亥七月廿日半天

一 小普請帳書方(二九)致出会候、当番同役日高氏・宮田氏・拙者、取払日高直之丞・矢神善左衛門、書役凶師直八・日高曾太郎・切通平之進・富山新十郎、ふれ谷口清左衛門・右田仲左衛門ニ而候、

亥七月廿一日半天

一 小普請帳書方引合迄相済候、当番同役日高八郎太殿・市来連右衛門殿・拙者、取払矢神善左衛門・日高直之丞、書役凶師直八・切通平之進・日高曾太郎、触谷口清左衛門・平岡藤五郎ニ而候、

亥七月廿四日半天

一 高帳為引合、地頭飯屋に致出會候、月番郷士年寄山之内休之進殿・伊東敬藏殿・日高直助殿、当番同役日高八郎太殿・市來運右衛門殿・宮田十助殿・拙者、取払日高直之丞・矢神善左衛門・書役守屋求馬ニ而候、

亥七月廿九日半天

一 明後朔日鉄炮からくり地頭飯屋に致持參、御場預横目・野廻り之間に相付取納有之候様、拙者当番ニ而舐召入候様、勘左衛門・権之進に申付候、野町・諸在之儀と銘と名前相立□九ツ時地頭飯屋に致持參可致取納旨取斗有之候様、当番郡見廻方へ申越候事、

一 明後朔日九ツ時、鉄炮からくり地頭飯屋へ致持參取納有之候様、郷士・野町・諸在に申渡置候ニ付、為取納方被成御出張度、御場預横目宇都宮休藏殿に申越候事、

亥八月五日晴天

一 柿元仲次郎鉄炮からくり不正之儀有之候段、野廻り上村□助(勇)が申出候ニ付、今暮六ツ時分御用之儀有之候間、地頭飯屋へ鉄炮持□いたし候様取斗、野廻り□にも致出會候様申越候、

一 右之通御用申渡置候得共、不罷出候ニ付、此節と拙者内とニ

而取斗置、可然申談罷歸候、拙者并野廻り上村□助(勇)・日高金八ニ而候、

亥八月七日晴天

一 郷士年寄代拙者、横目兎玉権之助、行司兎玉善太郎・峯崎源兵衛・竹木見廻右田仲太波見浦之新右衛門申請木木場改として差越候、拙者并横目衆事と新右衛門所に罷居、行司・竹木見廻方に相頼候、邊田并松改方迄承知いたし差越候処ニ、外場所改方願申出候得共、□番郷士年寄衆に□申出候而と不相成段申付候、

亥八月九日半天

一 柿元鉄(兵九)衛事、鉄炮からくり不正之儀□去ル五日野廻り上村勇助が申出、御用申渡候処ニ、病氣ニ而不罷出、又候今晚御用申渡候処、病氣快氣由(不致)ニ而、谷山惣八を以御用承度段申出候ニ付、かりくり不正之儀相糺候処、間違之段申出候故、以後間違無之様申達置候、

亥八月十一日晴天

一 波見浦詰方横目吉田次郎四郎殿・岩下沢右衛門殿に野廻り日高金八・野元八次郎差遣、鉄炮切封之願為申出候処、明十二

日旅宿にからくり持参いたし候様被申付、尤掛役不残致出候様(被申力)、横目事と病氣ニ而候ハ、外同役を罷出候様被申付候

段、申出候二付、直ニ右横目手当井(くり)から持夫式人御手当被成被下度段、月番郷士年寄衆にふれ次右衛門を以申出候、尤地頭飯屋格護筒からくり放方として、明日出無間違罷出候様、迫田金八に申越候、

亥八月十二日晴天

一 拙者井横目兎玉権之助殿・野廻日高金八・野元八次郎・上村勇助同道ニ而締方横目岩下沢右衛門殿旅宿に差越候処ニ、同役吉田次郎四郎殿事被参居、鉄炮切封相済候、綱差見習茂助・太郎召列候、野町武吉・覚四郎子・宮下市からくり持夫として罷出候

一 来ル十五日九ツ時、鉄炮からくり渡方と被罷出候様、野廻りに申付候、

亥八月十三日晴天

一 明後十五日(九カ)□ツ時、鉄炮からくり受取方と地頭かり屋へ罷出候様、野町・新留村・前田(村)・野崎村に可被申渡旨、郡見廻方に申越候、

亥八月十四日晴天

一 明十五日九ツ時、鉄炮からくり請取(方)と地頭飯屋に罷出候様ふれ召入候、

一 同役日高八郎太殿・拙者同道ニ而、新留村尾之下詰地方檢者窪田周助殿に致見舞、我々共当秋取納方掛之段申出候、鮎川関御見分被成下度段も申出候、兩種先例之通差出候、地方檢者肥後市右衛門殿・郷士年寄吉井宗太郎殿・内之浦七郎次殿・郡見廻右田半蔵・郡見廻代小牧惣右衛門其外諸在庄屋参会有之候、

亥八月廿日晴天

一 取納方掛御届書に致印形候事、

一 締方横目衆江田源助殿、野町伊三次所に今日御差入有之、致見舞候事、

一 今日(勘定江カ)模合惣掛□□取付候、月番郷士年寄山之内休之進殿地頭飯屋に御越有之候得共、直ニ野町詰締方横目衆に御見舞有之候、外出役当番与頭拙者、勘定役野元八太郎・日高半右衛門、取払日高直之丞・矢神善左衛門、郷士年寄所書役図師直八、ふれ日高次右衛門・谷口清左衛門ニ而候、

亥八月廿一日曇晴天

一 模合勘定出役郷士年寄山之内休之進殿、与頭拙者、勘定役日高半右衛門・野元八太郎・日高六太郎、取<sup>(矢神)</sup>弘善左衛門・日高直之丞、書役図師直八、寄大窪<sup>(与)</sup>早太、与頭出役守屋求馬、触日高次右衛門・谷口清左衛門ニ而候、

亥八月廿二日曇晴天

一 勘定出役郷士年寄山之内休之進殿、与頭拙者、勘定役日高六太郎・野元八太郎・日高半右衛門、取弘善左衛門・日高直之丞、書役図師直八・山之内甚次郎、ふれ谷口清左衛門・日高次右衛門ニ而候、

亥八月廿三日雨晴天

一 勘定役郷士年寄山之内休之進殿、与頭拙者、勘定役日高半右衛門・野元八太郎・日高六太郎、取弘善左衛門・日高直之丞、書役図師直八・山之内甚次郎、与頭拙者<sup>書役</sup>守屋求馬、ふれ谷口清左衛門・日高次右衛門

一 拙者事、東取納方掛ニ而候処ニ、掛郷士年寄衆病氣ニ而波見村詰地方検者窪田周助殿方に郷士年寄代相勤候様、月番郷士年寄衆<sup>(十助)</sup>被仰付候ニ付、明日<sup>(十助)</sup>当番之儀宮田氏に次渡筈申談候、

亥八月廿四日晴天

一 今朝当番宮田氏<sup>(十助)</sup>に次渡、波見村詰地方検者窪田周助殿方に差越相勤候、

一 今晚地方検者於旅宿、御条書<sup>(開力)</sup>拜弘方有之候、地方検者窪田周助殿、郷士年寄代拙者、郡見廻右田半蔵、庄屋名代峯崎市助ニ而候、四ツ時分相濟候ニ付、致暇、右田氏同道ニ而籠之様罷帰候、

亥八月廿五日晴天

一 横目上田司代り役調替本調書人数相除吳候様、先達而拙者当番之節、月番郷士年寄山之内休之進殿<sup>御頼</sup>ニ付、同役中出席ニ而外人數調替候、

亥八月廿六日雨天

一 今日波見村地方検者方に差越居候処、明日前田村に御郡奉行衆御差入有之由ニ而、彼方へ西東申談相勤候様、月番郷士年寄衆<sup>(半蔵)</sup>被仰候段、右田氏<sup>(半蔵)</sup>承候ニ付、西取納方掛方に被申越度段申進候処ニ、夜半時分書状相達、内之浦氏<sup>(休之進)</sup>・吉井氏<sup>(宗太郎)</sup>病氣ニ而出勤難叶段被申出候向ニ而、御検者衆に申断、拙者相勤候様、又候月番郷士年寄衆<sup>(板力)</sup>に申越候、

亥八月廿七日雨晴天

一 今朝波見村と前田村に右田氏同道ニ而差越候処、御郡奉行松崎正藏殿、書役鎌田甚七殿、其外蒔見・筆算・竿取老人ツ、被召列、九ツ時分前田村孝右衛門所に御差入有之、七時分(ツ時)切損地引御見分有之候事、

亥八月廿八日晴天

一 今日四ツ時分前田村出立ニ而波見村藏屋敷之(勘カ)右衛門所に宿移有之、拙者并右田氏(半老)相付居候、

亥八月廿九日晴天

一 今朝御郡奉行衆波見村出立ニ而、内之浦に御越有之候事、

一 地方検者窪田周助殿に拙者并右田氏相付、新留・野崎切例有之、直ニ野崎村に宿移いたし候、

一 今晚地方検者旅宿茂吉所に拙者并右田氏、庄屋福山金右衛門(勘カ)差越居候処、始良下名村庄屋田野邊太(勘カ)次殿被參候事、

亥八月晦日晴天

一 地方検者衆事と今日四ツ時分始良に上見願見例として被差越候ニ付、九ツ(時)分拙者并右田氏同道ニ而罷帰候、

一 来春田人普請場致見賦置候様、検者衆が被申付置候ニ付、明

後 二日野崎村致見賦筋、右田氏に申談、手当申付置候、今日吉井

氏に差越、右之通右田氏に申談置候、御方病氣未快氣無之哉之旨相尋候処、明後二日が彼方出勤有之段承置候事、

亥九月朔日晴天

一 野廻り野元八次郎・上村勇助出会之上、鶴鴨致飛行候段、御鳥見役所に届申出候、

亥九月三日晴天

一 山之内甚右衛門隠居願書被差出、同役宮田氏致次書、被差廻候ニ付、致印形候、宮田氏(十助)・日高氏(八郎太)・市来氏(運右衛門)・拙者連名ニ而候、

一 新留村余高主取老人ツ、今晚拙者宅に召呼、十一月十日・同

廿日両度之折半分ツ、致取納候様、每折取納米疋合迎も不足無之様申合置候様申付候、

一 締方横目吉田次郎四郎殿御栗園御用ニ付、野町賞兵衛所に一宿有之候ニ付、今晚致見舞候、横目児嶋氏(孫八)・町仁平次参居候、

亥九月六日雨晴天

一 東取納(亮)地方検者窪田周助殿方に今日が郷士年寄代相動候様、月番郷士年寄内之浦七郎次殿が被仰付相動候、郡見廻代日

高曾之進罷出候事、

亥九月七日晴天

一 今日ノ九日迄内用有之、昨日御檢者衆に相頼置候ニ付、今日出動不致候事、

亥九月八日曇晴天

一 昨日同様御檢者衆方に出勤不致候、

一 新留村綱差見習茂助に別勤被仰付度趣ニ而、調書相添、月番郷士年寄衆ノ問合有之、御場預役ノ中致吟味相調候様、御場預郷士年寄衆ノ差被仰付、今晚出會之通達申進候処ニ、野廻り上村勇助・野元八次郎・上田直次郎出會有之、申談候処ニ、当年御提飼共有之候ハ、不取馴ものニ而差支之儀も難斗致吟味候ニ付、右之成行連名を以御場預郷士年寄衆に申出、調書之儀も相添致返納候事、

亥九月九日曇天

一 今日九ツ時分御檢者衆御旅宿に出勤いたし候様可申越旨、御檢者衆ノ被仰付候段、郡見廻右田半蔵方ノ問合有之、差越候処、昨日邊田之耕作罷出、明日之折米被相迎被下度、左候ハ、廿日之折ニ入米三折以上仕可申候間、願通被仰付度段申出、

不可然事候ニ付、波見村庄屋并名主、邊田之耕作今日九ツ時御用申渡置候段承候、然処ニ波見村庄屋・名主・邊田之耕作罷出、何卒右通被仰付度再重及願、地方御檢者衆・拙者・郡見廻右田半蔵致吟味、右之通可申付候間、以後間違無之様申付候、

亥九月十日晴天

一 御檢者衆御旅宿上之藪之權蔵所ニ而請取合いたし、柏原詰御代官并郡方御仕登方掛郡奉行岩下新太夫殿・町田孫太夫殿方に入米届申出候、窪田周助殿・拙者・郡見廻右田半蔵連名ニ而候

亥九月十一日晴天

一 今日ノ御檢者衆永野に宿移有之筈候ニ付、吉井氏に今朝差越、今日ノ御出勤相調可申哉之旨相尋候処ニ、被成出勤段承候、

亥九月十七日曇天

一 締方横目鳥丸孫一殿昨日野町□左衛門所に御差入有之、今朝致見廻候、郷士年寄内之浦氏、同役宮田氏被參、同道ニ而罷帰候、

一 □鳥見頭格肥後与左衛門殿今日串良下小原に御差入有之候段、野廻り野元八次郎・日高金八ノ申出候事、

亥九月十八日半天

茂助

一 今日早天地頭仮屋に致出会候様、月番郷士年寄内之浦七郎次殿に通達有之候得共、拙者事病氣ニ而出動不相調、其訳申出候、

亥九月十九日半天

一 締方横目岩下沢右衛門殿・唐物締愛甲新右衛門殿・大崎表締方横目横目当分波見詰木尾助右衛門殿・串良横目竹下休藏殿・中山彦八殿鑄流馬見物として被差越候由ニ而、兎嶋孫八殿被致同道、拙者所へ立寄有之候、

亥九月廿日曇晴天

一 岩下沢右衛門殿・愛甲新右衛門殿・木尾助右衛門殿野町に一宿有之、同役日高八郎太殿同道ニ而致見舞候事、

亥九月廿五日曇晴天

一 野廻り日高金八・野元八次郎拙者宅へ致出会、案山子竹立方井繩張御免許被仰付度段願書相認、致宿次郡見廻石田半藏方に遣候事、

一 覚

新留村長福寺門

大隅農村社会経済史料

(右者力)

一 綱差見習相勤居候処ニ別勤申付候段申出候間、当分御鳥見衆御差入有之候ニ付、右之段可被申出置候、左候而成行拙者方に承度候間、何分可被申出、此段申進候上、

郷士年寄

内之浦七郎次

亥九月廿一日

掛

与頭衆中

右之通被仰越候得共、拙者病氣ニ而候故、野廻り上村勇助召呼、右之成行串良池之原詰御鳥見頭格肥後与左衛門殿方に申出候様申付候、

亥九月廿六日晴天

一 今朝野廻り上村勇助罷出、昨日被仰付候新留村(綱)差見習茂助一件御鳥見頭格肥後与左衛門殿方に申出候処、綱差見習当年差免儀不相成候間、右之成行月番郷士年寄方に差申出置候様被仰付候段申出、趣承届候ニ付、拙者ニ淺病氣之事情間月番郷士年寄内之浦七郎次殿方に今日差越成行申出候様、右勇助へ申付

第三十二卷 第一号 七三

候、

亥十月二日晴天

- 一 波見村平後蘭詰取納究檢者窪田周助殿方へ郷士年寄代相勤候様、月番郷士年寄衆々今朝被仰越、九ツ時分(越相力)差□□勤候、拙者旅宿甚太郎所ニ而候、郡見廻右田半蔵相勤居、今晚尅刻暇いたし罷帰候、

亥十月三日晴天

- 一 請取合間究有之、拙者并郡見廻右田半蔵□□村・波見村庄屋在役檢者旅宿□□所に罷出候、

亥十月四日半天

- 一 檢者并拙者・右田半蔵・波見村庄屋・名主正助・用水下役商人召列御普(請之)場見賦いたし候事、
- 一 宮之城手蔵下代頼ニ而請取□□差出候儀ニ付、不行届儀有之、串良中宿田中休蔵今晚(被：参力)拙者旅宿に一宿之事、

亥十月五日雨天

- 一 右田中休蔵今朝断相濟、誤書取納座に被差出被罷帰候、
- 一 東三ヶ在米割不宜、今日庄屋・在役檢者旅宿に罷出、直方いたし候、新留村之儀々三日之間究ニ涉請取致不□□合いた

し候、拙者并右田氏出会之事、

亥十月六日雨天

- 一 野崎村(江カ)宿移いたし候、拙者旅宿大蘭之新右衛門所ニ而候、
- 一 米割帳違目有之、郡方が相下候ニ付、檢者旅宿金助所に致持参差出候、

亥十月七日晴天

- 一 庄屋福山金右衛門を招ニ付差越候、檢者并郡見廻右田氏・枅方檢者横山喜七郎殿・栢楮掛成合城之助ニ而候、

亥十月八日曇天

- 一 新留村・野崎村米割直方□□相濟、今日庄屋・在役檢者旅宿に罷出候、拙者并右田氏出勤ニ而候事、
- 一 今晚社人長次招ニ付、檢者衆并拙者・右田氏同道ニ而差越候事、

亥十月九日曇天

- 一 野(崎村)庄屋・在役并波見村名主勤右衛門罷出候、拙者并右田氏檢者旅宿に致出会候事、

亥十月十日半天

- 一 請取合いたし候ニ付、野崎村・波見村庄屋・在役罷出候、新

留村之<sup>(儀)</sup>庄屋病氣ニ而在役迄罷出候、拙者・右田氏<sup>(檢者)</sup>旅宿  
に致出候事、

亥十月十一日半天

一 野崎村庄屋・在役、新留村・波見村在役、檢者旅宿に罷出候、

拙者并右田氏出勤いたし候、

一 今晚宅刻右田氏被罷帰候、

亥十月十二日半天

一 野崎村庄屋・在役、新留村・波見村在役、檢者旅宿<sup>(儀)</sup>に罷出、

米割高究致糺方、波見村迄相濟、拙者并右田氏致出勤候、

亥十月十三日晴天

一 野崎村庄屋・在役、新留村在役、檢者旅宿に罷出、米割高究

糺方相濟、三ヶ在米割并去ル十日請取合入米届書、三ヶ在高違

誤書三通檢者并拙者・右田氏連名之添状宅通郡方に差出候事、

亥十月十四日晴天

一 檢者并拙者・右田氏、野崎村庄屋・在役召列、御普請場致見

賦候事、

亥十月十五日曇天

一 檢者於旅宿請取合致問究候、拙者并右田氏出會、野崎村・新

留村庄屋・在役罷出候、波見村之儀ニ在役共迄罷出候、

一 三ヶ在請取都而檢者預被置候得共、今晚不殘庄屋・在役に被  
相渡候事、

亥十月十六日晴天

一 檢者衆事ニ鹿屋御普請場見賦と<sup>(儀)</sup>四ツ時分出立被差越候ニ

付、拙者并右田氏同道ニ而罷帰候、左候而吉井氏病氣快氣之段

承候故、私罷帰候間、彼方ニ在勤有之候様被仰出被下度段、月

番郷士年寄山之内休之進殿に申出候事、

一 御鳥見頭格肥後与左衛門殿御旅宿内<sup>(儀)</sup>之権八所に差越候處、

尾之下之茂助所に御越之段承、直ニ彼所に差越致見舞候事、

亥十月十八日晴天

一 右肥後与左衛門殿串良に宿移有之候ニ付差越候、野廻り日高

金八・上村勇助・野元八次郎・庄屋児玉直十郎其外下役罷出

候、

亥十月十九日晴天

一 前田村御提劍被仰渡、今日宿拵いたし候ニ付、差越致見分

候、野廻り上村勇助・郡見廻野崎勤兵衛・綱差不殘罷出候、

亥十月廿一日晴天

一 御鳥見格肥後与左衛門殿前田村孝右衛門所に申良が宿移有之、拙者并野廻り上村勇助・野元八次郎・日高金八差越候、

亥十月廿二日晴天

一 御鷹七居御提飼御役が都合拾六人、八ッ邊が御差入有之、早庭渡手前迄役が出迎へ、都而御着之上、宿が致見舞候、郷士年寄

吉井宗太郎殿・与頭拙者・野廻り上村勇助・野元八次郎・日高金八・郡見廻代小牧恕右衛門・綱差不残出勤いたし候、

亥十月廿三日晴天

一 御鷹匠頭・御鷹匠出勤有之、野廻り野元八次郎・日高金八・綱差不残相付候、

亥十月廿四日晴天

一 御鷹匠頭・御鷹匠出勤有之、御用部屋書役衆被差越候ニ付、野元八次郎・綱差不残相付候、

亥十月廿五日晴天

一 御鷹匠頭・御鷹匠出勤有之、綱差共相付候、御鳥見頭格衆事も御出勤ニ付、野元八次郎同道いたし候、

一 八ッ時分が御鳥見頭格・御鷹匠頭・御用部屋書役・御鷹部屋書役・御鷹匠安藤喜兵衛殿・拙者・野廻り野元八次郎同道ニ而

日新院に差越候、帰掛野町立宿利八所に同道いたし候、上村勇助参相付居候、

一 野廻り日高金八事も今日地頭犬山に鉄炮解封方とノ昨夜が登山いたし候、

亥十月廿六日半天

一 御鳥見頭格・御鷹匠頭・御用部屋書役寄其外御鷹部屋書役・御鷹匠大崎角力に被差越候ニ付、野元八次郎・上村勇助・小牧恕右衛門致同道候、今晚御鷹匠并。恕右衛門罷帰、其外大崎泊之事、

亥十月廿七日晴天

一 御鳥見頭格・御鷹匠頭・御鷹部屋書役・上村勇助同道ニ而八ッ時分大崎が被罷帰候、

一 明廿八日平鹿倉に山奉行犬山有之筈ニ而、野廻り野元八次郎鉄炮為解封大崎が直に波見に差越候処ニ、御用部屋御書役衆事も被差越候、

亥十月廿八日晴天

一 御鳥見頭格・御鷹匠頭出勤有之候、御用部屋書役寄今暮時分波見が御帰有之候、

亥十月廿九日晴天

一 御鷹方山之神講有之、所掛役・綱差共迄も罷出候様被仰、野廻り、郡見廻代・綱差共差越候、拙者事々山之内家に法事。御用有之、彼方に差越候、

亥十一月朔日晴天

一 御鳥見頭格・御鷹匠頭・御用部屋御書役寄申良角力に被差越候二付、拙者并野廻り三人郡見廻代相付差越候、

亥十一月二日晴天

一 御鳥見頭格・御鷹匠頭・御用部屋御書役寄・拙者・野廻り三人・日高勘左衛門・綱差共召列致躰狩、宮下村之金次郎・論地之四郎右衛門所に立寄候、

亥十一月三日晴天

一 今晚拙者罷帰候事、

亥十一月四日晴天

一 新習村綱差見習茂助所召招二付差越候、御鳥見頭格・御鷹匠頭・御用部屋御書役寄・拙者・野廻り三人同道二而候、

亥十一月五日雨天

一 肥後与左衛門殿・寺師赤殿・伊集院八藏殿其外御鷹匠三人・拙者・野廻り三人・綱差共召列御場廻動いたし候、波見浦立宿

新右衛門所二而、帰掛綱差太郎所に一宿いたし候、

亥十一月六日晴天

一 肥後与左衛門殿・伊集院八藏殿・拙者・野廻り三人同道二而前田村旅宿に罷帰候、

一 今日七ツ時分寺師赤殿所に致見舞候処、大崎郷士年寄山下良八殿・与頭肥後(織力)右衛門殿・横目上床以吾平殿外庄屋彦人参居候、

亥十一月七日晴天

一 伊集院八藏殿同道二而柏原方に差越筈(申力)談置候得共、拙者足病二而難差越、野廻り野元八次郎・上村勇助同道いたし候事、

亥十一月八日晴天

一 綱差見習半次郎召招二付差越候、御鳥見頭格肥後与左衛門殿・御用部屋書役寄伊集院八藏殿・御鷹匠頭寺師赤殿・右同格草野仲左衛門殿・御鷹部屋書役森源七殿・拙者・野廻り三人・郡見廻代小牧恕右衛門二而候、

亥十一月九日晴天

一 御廻勤寺社方取次江田太郎太殿・書役市来源之丞殿・大工彦人・郷士年寄山之内休之進殿・与頭日高八郎太殿・書役守屋求

馬、拙者宅ニ而賄いたし候故、前田村在勤肥後与左衛門殿・寺師赤殿・伊集院八藏殿・野元八次郎同道いたし賄いたし候事、

亥十一月十日晴天

一 一六ヶ所於馬場、寺社方取次衆馬乗有之、為見物伊集院八藏殿・寺師赤殿・拙者・野元八次郎同道いたし日高氏に立寄候、

一 右八藏殿并上村勇助・日高金八同道ニ而今晩御鷹方犬山に登山有之候、

亥十一月十一日晴天

一 今晚伊集院八藏殿御旅宿相持居候処、御帰有之候、

亥十一月十二日半天

一 拙者事昨夜罷帰、今日九ツ時分前田村旅宿に差越、御頭衆に見舞いたし候事、

亥十一月十三日晴天

一 花牟礼山・平後園之上作狩御鷹方犬山取企、肥後与左衛門殿

・伊集院八藏殿・上村勇助・日高金八登山有之、四ツ猪一丸金八打留、式才猪一丸与左衛門殿打留ニ而、右四才猪片平致上納候事、

亥十一月十四日晴天

一 一八ツ過与左衛門殿・赤殿・八藏殿・拙者・八次郎同道ニ而八次郎所に差越、賄有之、拙者所・勇助所に老刻ツ、立寄候事、

亥十一月十五日晴天

一 今晚赤殿が賄有之、八藏殿・拙者・八次郎・金八・勇助同道いたし候事、

亥十一月十六日雨天

一 野廻り上田直次郎代り柿元方右衛門に被仰付、今日罷出相勤候事、

一 上田直次郎役儀御免被仰付候旨、御鳥見役所が被仰渡、親類上村勇助に申渡候、

一 御鷹匠頭寺師赤殿・御用部屋御書役寄伊集院八藏殿・御鷹匠頭格草野仲左衛門殿に今晚拙者旅宿ニおひて致残別候、

亥十一月十七日雨天

一 今晚宅刻拙者事致帰宅候事、

亥十一月十八日晴天

一 今日御頭衆御廻勤有之、今晚伊集院八藏殿御旅宿ニ而永咄いたし罷帰候、

一 鶉野相調、日高金八・上村勇助差越候処ニ雄三羽・雌五羽取

得候事、

亥十一月十九日雨天

一 今晚御頭衆に暇いたし御地頭飯屋に致出候様、月番郷士年寄内之浦七郎次殿が被仰越、赤殿御旅宿に差越候処、伊集院八藏殿・勇助・串良野廻り萩原正八・中原良右衛門・宮地市正参会有之候、拙者事と暇いたし御地頭飯屋へ致出候得共、曉迄も吟味不相決候ニ付頼置、前田村に差越候事、

亥十一月廿日晴天

一 今朝御提銅方御役、都而御引取有之候ニ付、宿、見舞いたし首尾能相濟候、御鳥見頭格肥後与左衛門殿事と鴨畏差入方不相濟、御引取無之候事、

一 御廻勤表横目椀山武吉殿昨日野町正八所に御差入有之、今暮時分致見舞候、郷士年寄山之内休之進殿・内之浦七郎次殿・与頭日高八郎太殿・宮田十助殿・横目兒嶋孫八殿・兒玉権之助殿・吉田仁之助殿參被居候、

一 大崎郷士年寄山下良八殿・内之浦郷士年寄相良新右衛門殿・

郡見廻松下平左衛門殿被參候、

亥十一月廿一日曇天

大隅農村社会経済史料

一 椀山武吉殿今朝爰許御出立二而串良之様被差越候ニ付、致見舞候、郷士年寄山之内休之進殿・与頭宮田十助殿・横目兒嶋孫八殿・吉田仁之助殿・兒玉権之助殿・内之浦郷士年寄相良新右衛門殿・同所郡見廻松下平左衛門殿被參候、

一 九ツ時分肥後与左衛門殿串良に宿杉有之、致見舞候、野廻日高金八・柿元万右衛門・郡見廻代小牧恕右衛門參居候、

一 先達而肥後与左衛門殿が綱差休藏に川畏為差入被置候処、波見浦船木出方請人峯崎藏右衛門・竹之下次平太不行届儀有之、致糺方候様被仰付、相糺候処、無調法至極奉存候段、郷士兩人を以昨夜が申出、野廻方に差廻置置候ニ付、今日御頭衆が取下、以後取違無之様申付相濟候、

亥十一月廿二日曇天

一 小牧恕右衛門事、永、代役相勤候ニ付、当年中狩立并御番可差免致吟味候、当番同役市来氏・日高氏・宮田氏・拙者二而候、

亥十一月廿三日晴天

一 前田村部下取揚米被下切之願書相認被差廻致印形候、地方檢者肥後市右衛門殿・郷士年寄内之浦七郎次殿・与頭拙者・横目

第三十二卷 第一号 七九

児玉権之助殿・郡見廻日高曾兵衛ニ而候、

亥十一月廿四日晴天

一 留山弼止待いたし候もの共に今暮六時分御地頭飯屋に罷出候

様申渡置候ニ付、致出候様、当番同役市来氏(ツ脱)が通達有之、同

役中出会之上、致糺方候、同役日高氏出会無之候、

亥十一月廿五日晴天

一 児嶋勘次郎・石之脇中宿峯山森八藏同道ニ而留山弼止待いたし候

儀、無調法至極奉存候段、上床助次郎・松下鉄兵衛を以申出、

承置候、

一 瑞光寺門前之鉄太郎・覚太郎留山弼止待いたし候儀、無調法

奉存候段、図師善良坊・松元正蔵を以申出候ニ付承置候、

一 締方横目池水助八殿・法元宇左衛門殿今日野町に御差入有

之、市来氏同道ニ而見舞いたし候、内之浦七郎次殿・宮田十助

殿・児玉権之助殿・児嶋孫八殿・吉田仁之助殿參被居候、

一 留山弼止待いたし候もの之内、昨夜行違ニ而御地頭飯屋へ不

罷出もの有之、今晚当番同役市来氏に罷出候ニ付、致糺方候、

当番井日高八郎・太殿・拙者致出候、宮田氏事と相頼段承候事、

井十一月廿六日晴天

一 大平之市太郎父子・始良中宿奥右衛門、留山弼止待いたし候

儀、無調法奉存候段、迫田金八・峯崎市左衛門を以申出候ニ付

承置候、

一 児嶋勘次郎・峯山八藏に猪耆丸、瑞光寺門前之鉄太郎・覚太

郎に猪耆丸申付候而も如何可有之哉之旨、銘し使人に為持相談

書当番同役が被差廻候ニ付、存寄無之段返答いたし置候事、

一 昨夜御鳥見頭格肥後与左衛門殿が御用有之、串良池之原に差

越候処、拙者事御用有之、明日罷帰答候、右ニ付嶋畷差入方之

儀と指宿が取止候様被申越迄之間、是迄之通差入、郷士年寄宿

次を以、指宿詰御鳥見方に差上候様被申付候、尤爰許作狩之儀

も本之通來十二月中免許被仰付候段、致承知候趣、野廻日高

金八が申出候、

一 野町伝吉留山弼止待いたし候儀、無調法至極奉存候段、谷口

清左衛門・遠矢与右衛門を以申出候、

一 表横目西之原伊右衛門殿・藏方目附鎌田賀吉殿御借シ上良方

ニ付、今日野町に御差入有之、見舞いたし候、横目児嶋孫八殿

參被居候、

亥十一月廿七日半天

一 大平之市太郎父子・始良中宿貞右衛門に三才以上之猪卷丸、野町伝吉に猪卷丸申付候而、如何可有之哉之旨、当番同役方、相談書被相廻候二付、存寄無之段致返答候、

亥十一月晦日晴天

一 波見浦之宇右衛門自船觀音丸早米御仕登出帆改之願申出、差越致改方候処、二不正之儀無之候、締方横目池水助八殿・唐物締横目谷川(蘇力)之助殿・郷士年寄代拙者・横目吉田仁之助殿ニ而候事、

亥十二月三日晴天

一 今朝市来氏、当番相受取、月番郷士年寄内之浦七郎次殿に届と、差越候処ニ留守ニ而、書役凶師直八に相頼罷帰候事、

亥十二月六日晴天

一 締方横目法元宇右衛門殿・池水助八殿・星山彦助殿・穎川甚右衛門殿・山本金石右衛門殿、野町に御詰居ニ而致見舞候事、

口上覚

西ヶ原  
山畑八間半 三畦廿壹步

長次郎

大豆六升三合

右、大田彦次郎殿抱地ニ而、親代永野之善六、引渡地方相受

取、枚差入置申候処、坪間違ニ而、枚差入置申候地方之儀、宇都宮東覚院殿抱地ニ而、此節御見分之上相知、私方三畦廿壹步之地方、外ニ有之、相受取申候二付、以後東覚院殿方に難渋申考無御座候間、此段申上候、以上、

高山郷士

吉川孫太郎印

亥二月廿七日

嫡子

吉川五左衛門印

御郡見廻衆中

御与頭衆中

御郷士年寄衆中

覚

山下之上  
山畑四間

七畦廿六步

半次郎

大豆壹斗式升六合

右、後田村私抱地ニ而先、同村永野門善六方に下作支配相頼置申候処、年罷寄支配届兼候二付、先年新留村福元門庄右衛門を以地面相受取申候処、吉川孫太郎親亡正左衛門、杉木差入有之、孫太郎方に引合仕候処、彼方地面間違ニ而被差入候段承届

置申候、然処去秋直御竿内踏付之節、右地面入組之儀到来仕候  
処、此節直御竿ニ付御糺方之上、私抱地ニ決定仕、当分杉山ニ  
罷成居候儀相違無御座候、尤右地面ニ付、以後難決ケ間敷儀不  
申候間、此段申出候、以上、

亥 二月廿八日

宇都宮東覚院印  
宇都宮蓮淨院印

御郷士年寄衆中

御与頭衆中

御郡見廻衆中

右之通申出候儀承届申候、其身と勿論私共以後難決申上候儀無  
御座候間、此段申上候、以上、

郡見廻

大窪郷八印

亥 三月朔日

与頭

守屋十太郎印

右同

宮田十助印

郷士年寄

内之浦七郎次印

御郡方御書役  
有馬仁之助殿

亥十二月七日晴天

一 垂水絵師宮原三頼殿今朝拙者宅に被參候、

一部下り取上米并去戌春<sup>亥</sup>当<sup>亥</sup>春迄種子飯料用と<sup>諸</sup>□に借入  
返米取納有之候、御地頭仮屋出役地方檢者肥後与<sup>市右衛門殿</sup>左衛門殿・郷

士年寄内之浦七郎次殿・与頭拙者・横目兒玉権之助殿・郡見廻  
日高曾兵衛・筆算之儀と右曾兵衛・図師直八相勤候、

亥十二月八日晴天

一 右同断、取納方と御地頭仮屋出役肥後市右衛門殿・内之浦  
七郎次殿・拙者・兒玉権之助殿・日高曾兵衛・図師直八、筆算  
右同断、

亥十二月九日雨晴天

一 右同断、御地頭仮屋出役肥後市右衛門殿・内之浦七郎次殿・  
拙者・兒玉権之助殿・日高曾兵衛・図師直八同断、

亥十二月十二日晴天

一部下り取上米表数相違有之、御地頭仮屋に致出会候様、郷士  
年寄内之浦七郎次殿より被仰越致出会候得共、何方間違共不相  
知、御披露申上程之事二而も無之故、落米を以差足筋致吟味候、  
出役地方檢者肥後市右衛門殿・郷士年寄内之浦七郎次殿・与頭

拙者・横目兎玉権之助殿・郡見廻日高曾兵衛ニ而候、凶師直八罷出候、左候而拙者并兎玉権之助殿事々野町権兵衛・伊三次所ニ遣置候儀に繩張封印召入方とシ差越候、

亥十二月廿一日雨天

一 宮田氏に当番次渡管候処ニ鹿府ノ帰宅無之、今日ノ市来氏に当番預ケ置候事、

一 歳暮御祝儀并年頭御祝儀とシ、明廿二日鹿府参上いたす筈ニ而、通夫・人馬被仰付度段、月番郷士年寄内之浦七郎次殿に申出候、

亥十二月廿二日半天

一 月番郷士年寄衆に届申出九ツ時分致出立、夜入候而古江間屋に致着候、尤前田村之鉄右衛門雇入通夫として召列候、郷士年寄山之内休之進殿同道いたし候事、

一 分六貫文 惣掛方取替

一 〆四貫文 別良方取替

(行間書込、朱筆)

\* 「惣掛方取替并別良方取替」子二月廿一日差引ニ而返済いたし、覚書式通相受取、郷士年寄衆并我々当番方へ差出候、」

大隅農村社会経済史料

亥十二月廿三日晴天

一 今朝古江ノ人馬雇入、垂水中之俣に八ツ時分致着、丸木船宅艘借切、今晚五ツ時分鹿府に着、直ニ御取次衆に届申出候、山之内休之進殿同道之事、

一 分三百四拾八文

右ニ古江ノ垂水中之俣迄駄賃分として相払候、

一 〇六百文

分五百四拾八文

外 五百四拾八文

山之内休之進殿出分

右ニ垂水中之俣ノ鹿府迄丸木老艘借切運賃として相払候、

一 伊東敬藏殿・吉川孫太郎殿・兎玉直十郎殿・伊東佳納次殿鹿府間屋に詰居之事、

亥十二月廿四日半天

一 惣大宮司役所用間佐藤右平太殿宅へ差越候事、

亥十二月廿五日半天

一 八ツ時分矢野清右衛門殿宅へ差越、掛御見候、山之内休之進殿同道之事、

(百九)

亥十二月廿六日晴天

第三十二卷 第一号 八三

一 御下為御祝儀麻袴ニ而惣大官司役所并播磨守様御宅へ差越候事、

一 一 棧三百拾式文 銘酒五盃

一 〃 式百文 肴一折

右式行播磨守様に進上、

一 銘酒三盃 代分百八拾四文

一 肴一折 代分百文

右式行惣大官司役所用聞衆に

一 社家官良惣而上納いたし候様、用聞が被仰候、尤社家中許状

写年頭便が差遣候様、是又用聞衆が被仰候事、

一 児玉直十郎殿被致帰帆候ニ付、海苔吹入ニ而相頼、宿元に差遣候事、

亥十二月廿七日曇天

一 御殿并御三役・御地頭所に御祝儀申上候、郷士年寄山之内休之進殿同道之事、

一 御勘定所に罷出候様被仰越、差越候処、波見浦之新五郎大嶋下船上納米欠米引付相渡置候ニ付、早々上納有之候様書付を以被仰付候、尤野町質屋御礼良引付忝通、同重御礼良引付忝通相受取、山之内休之進殿に相渡候、

一 分(一)五百文 御地頭所に

但目錄相添、御肴一折・御樽老荷と相記候、

鳥目之儀と枚原紙二枚ニ而包、水引ニ而結候、

肴一折代并銘酒拾盃代として郷士年寄山之内休之進殿中間ニ而進上、

一 〃 六百元 御取次衆に

但肴一折・銘酒五盃代として右同断、

一 〃 三百文 役人衆に

但肴一折・銘酒三盃代として右同断、

右之通歳暮為御祝儀、料物を以進上

亥十二月廿八日曇天

一 今朝伊集院八藏殿所に差越、掛御目候、尤婦掛上町に立寄買物いたし候事、

一 後田村出門之市太郎に致仕着候届、郡方に申出候様、郷士年寄山之内休之進殿が被仰付、四ツ時郡方に御届申出候事、

一 四ツ時惣奉行所に罷出、御借上良引付三通相受取候、

一 七ツ時山之内休之進殿同道ニ而最上孫左衛門殿所に差越候事、

亥十二月廿九日晴天

一 金子拾両 日高休左衛門殿

一 〃 拾両 日高直助殿

一 〃 拾両 守屋彈正

一 分式百廿四文 右三行藏入銀

として拙者取替

右者山之内休之進殿相談之上、千年屋貞右衛門方が取替、今日前田之鉄右衛門を以かね蔵に致上納候、右受取取方<sup>(之)</sup>儀も右休之進殿に相頼置<sup>(候)</sup>□

(文政十一年)

文政十一年戊子正月元日晴天

一 問屋に休ミ居候、山之内休之進殿・伊東敬藏殿・同佳納次殿

・吉川孫太郎殿同断、

子 正月二日雨天

一 今眺郷士年寄内之浦七郎次殿着有之候、

一 郡見廻大窪郷八・庄屋峯崎平八・福山金右衛門・先庄屋小牧

恕右衛門・柏原武平太・清水大泉院・安庭権左衛門・宇都宮平

六、右同船ニ而着有之候得共、脇宿ニ而候、

子 正月三日晴天

一 問屋詰中休ミ之事、

一 脇宿之面、上見一件并抱地一件ニ付、科長被仰付候、御請御

礼御地頭所に被申上候事、

子 正月四日晴天

一 御殿并御三役御祝儀相濟候、郷士年寄山之内休之進殿・拙者名代宇都宮平六ニ而候、

子 正月五日晴天

一 拙者事<sup>(マ、)</sup>十二月廿九日病氣ニ而御地頭所御祝儀迎も相調丈ニ而無之候故、郷士年寄山之内休之進殿に何願相頼、兩種料迎

も相渡置、六ツ時分掃帆いたし、夜半時分古江問屋に着いたし

候、郡見廻大窪郷八殿・庄屋峯崎平八殿・福山金右衛門殿・先

庄屋小牧恕右衛門殿・安庭権左衛門殿・清水大泉院殿・柏原武

平太殿・宇都宮平六同船ニ而候、

一 浅志<sup>(マ、)</sup>九百四拾八文

右之通御祝儀料出分と山之内休之進殿に相渡候、

子 正月六日半天

一 昨夜同舟いたし候人数同道ニ而四ツ時分古江が立罷帰候事、

一 芟百八文

右者鹿府が古江迄歸運賃として相払候、

子正月七日半天

一 昨日鹿府が罷帰候段、(守屋良兼)十次郎を以月番郷士年寄衆に申出候事、

覚

亥十二月廿二日か 子正月六日迄

⑨ 日数十四日

往来

前田村内村間

鉄 右 衛 門

右者此節歳暮御祝儀并年頭為御祝儀、鹿兒嶋に差越候ニ付、右之者雇入通夫として召列申候間、雇賃(鈔)分先例之通可被申渡候、

以上、

与頭

守屋 十太 郎 印

子正月七日

当番

郡見廻衆中

子二月五日雨天

一 横目宇都宮休藏殿代り并溝見廻・郡見廻加役野崎勘兵衛代り、竹木見廻右田仲太代り、普請見廻・口事方永井金之進代り、口事方柏原武平太代り、調書相認、同役市来運右衛門殿が被差遣致印形候、

一 部下り取揚米ニ付相談之由ニ而、尾之下詰地方檢者旅宿に致出候様、掛郷士年寄内之浦七郎次殿が被仰越候得共、拙者病氣之故、訳申出候事、

子二月六日晴天

一 部下り取上米ニ付御地頭飯屋に致出候様、内之浦七郎次殿が被仰越候得共、拙者病氣ニ而致出候躰無之、其段申越候事、

子二月十日半天

一 前田村部下り取上米請人四元新藏に相渡代分相受取、御地頭飯屋土藏に致格護置候段、郡方に届書に致印形候、地方檢者川上助五郎殿・郷士年寄内之浦七郎次殿・与頭拙者・横目見玉権

之助殿・郡見廻日高曾兵衛ニ而候、

差出

亥十二月廿二日子正月六日迄

印

日数十四日

往来

〃

〃 廿三日

印

分三百四拾八文

右者古江〃出船無之、垂水中之俣迄乘下〃疋履入賃分として相

払申候

印

〃 六百文

運賃

外六百文

但郷士年寄山之内休之進殿出分

貳百文

但通夫貳人出分

右者垂水中之俣〃鹿府迄丸木船〃老艘借切運賃として相払申候、

(行間書込、朱筆)

\* 一 右之表

惣掛方

鈔五貫六百文

内巻〃四百文

賦飯米代

大隅農村社会経済史料

四〃貳百八文 兩種料并往来渡り船賃  
右可被相払候、以上

郷士年寄

子二月十八日

山之内休之進印

惣掛方

取払衆中

印

〃 廿七日

〃 七百四拾八文

外七百四拾八文

但郷士年寄山之内休之進殿出分

右者行歳暮為御祝儀、御地頭所に肴一折・銘酒拾盃代と進上

仕候、

印

〃 三百文

外三百文

但右同断

右者行御取次衆に肴一折・銘酒五盃代として進上仕候、

印

〃 百四拾八文

第三十二卷 第一号 八七

外百四拾八文

但右同断

右老行役人衆に着一折・銘酒三盃代として進上仕候

子正月五日

印 〃 七〇〇拾八文

(百四)

外七百四拾八文

但右同断

右老行年頭為御祝儀、御地頭所に着一折・銘酒拾盃代と進上

仕候、

印 〃 〃

〃 七百四拾八文

外七百四拾八文

但右同断

右老行御地頭御子息様に着一折・銘酒拾盃代として進上仕候、

印 〃 〃

〃 三百文

外三百文

但右同断

右老行御取次衆に着一折・銘酒五盃代として進上仕候、

印 〃 〃  
〃 百四拾八文

外百四拾八文

但右同断

右老行役人衆に着一折・銘酒三盃<sup>(代)</sup>として進上仕候、

六日

印 〃 百〇〇文

帰運賃

右者歳暮御祝儀并年頭為御祝儀、鹿府参上仕、右之通召仕申候  
間、先例之通被仰付度奉存候、以上、

与頭

守屋 十太郎 印

子二月十日

御郷十年寄衆中

差出

子正月三日

印 〃 〃  
〃 着一折 代分式百四拾八文

印 〃 〃  
〃 銘酒八盃 代分五百文

右式行伊集院家に年頭為御祝儀、郷土年寄山之内休之進殿中間

二而進上、

五日

甲 肴一折

代分式百四拾八文

甲 銘酒八盃

代分五百文

右式行川上家に右同断

甲 肴一折

代分式百四拾八文

甲 銘酒八盃

代分五百文

右式行木上家に右同断

甲 肴一折

代分式百四拾八文

甲 銘酒八盃

代分五百文

右式行和田家に右同断

甲 肴一折

代分式百四拾八文

甲 銘酒八盃

代分五百文

右式行種子嶋家に右同断

甲 肴一折

代分四百七拾式文

甲 銘酒八盃

代分五百文

右式行加藤家に右同断

甲 肴一折

代分四百文

甲 銘酒八盃

代分五百文

右式行梅田家に右同断

右之通諸師匠家に年頭為御祝儀進上仕候間、先例之通被仰付度

御座候、以上、

同役

守屋 十太郎

子二月十日

当番

与頭衆中

(行間書込、朱筆)

\*「<sup>(鈔)</sup>右之表 <sup>(鑑)</sup>別良利合方

分五貫六百式拾四文

右可被相払候、以上、

与頭

市来運右衛門印

子二月十九日

模合方

取払衆中

右式面

合鈔拾壹ノ式百三拾式文

内六貫文

惣掛方取替

四貫文

別銀方取替

差引

壹ノ式百三拾式文

子二月廿一日手形引替相受取候、

覚書式通同断

子二月十三日晴天

一 津曲清兵衛継目願書に次書相認、当番同役市来氏ノ被相廻候

二 付、致印形候、同役中連名ニ而候事、

子二月廿五日晴天

一 竹之井利助跡付願<sup>(書)</sup>□次書相認、当番同役市来氏ノ被差廻、致印形候事、

子三月二日晴天

一 市来氏ノ当番相受取、月番郷士年寄山之内休之進殿に届申出候事、

子三月十九日晴天

一 唐物締横目速水八次郎殿・締方横目樺山武吉殿・田中正右衛門殿今日野町に御差入有之、致見舞候、郷士年寄山之内休之進殿・与頭富田十助殿・横目兒嶋源八殿・兒玉権之助殿参会有之候事、

子四月朔日晴天

一 今日宮田氏に当番次渡候事、

子四月二日半天

一 締方横目田中正右衛門殿野町喜助所に御差入有之、鉄炮解封相調致出候、

子四月十七日曇天

一 前田村部下り取上来払代分取納方と御地頭飯屋に致出候、地方検者川上助五<sup>(郎)</sup>殿・掛郷士年寄内之浦七郎次殿・掛与

頭拙者・掛横目児玉権之助殿・郡見廻日高曾兵衛・取払日高直之丞ニ而候、

子四月廿日半天

一 明廿一日御馬追ニ付九ツ時分爰元出立、鹿屋郷之原之十右衛門所に七ツ時分致着候、今晚小頭ヲ銘ヲ立人数面付被差出、与目印簀相渡候、郷士年寄吉井宗太郎殿・与頭市来運右衛門殿・拙者・横目児島孫八殿・地頭横目柏原伴之進・書役山之内甚次郎・取払矢神善左衛門・触日高次右衛門・寄触福永喜右衛門・包丁人四元軍藏・郡見廻大窪郷八・庄屋郡山八左衛門・右〃名代福山鉄之進殿ニ而候、

子四月廿一日曇天

一 五ツ時分郷之原練出志番たてニ而検見石踊次郎殿外老人(追力)に焼酎酒差出候、式番立ニ而右兩人に酒・中飯差出候、(七)落候而直(拙)拙者さしきに差越、屈書差出候、八ツ過惣仕舞候ニ而同役市来氏さしきに被差越、直ニ暇ニ而都而引取、日高く自宅に帰着候事、

子四月廿三日晴天

一 締方横目田中正右衛門殿野町権兵衛所に御差入ニ付、致見舞

大隅農村社会経済史料

候、

子四月廿四日晴天

一 締方横目吉田七郎殿野町利八所に御差入有之、致見舞候事

子五月十二日半天

一 浦廻檢使川上林兵衛殿今日波見浦に御差入有之、御条書拜聞いたし候、出役郷士年寄山之内休之進殿・与頭拙者・宮田十助殿・横目児嶋孫八殿・津田仲右衛門殿・児玉権之助殿・郡見廻日高曾兵衛殿・小牧惣右衛門殿・書役山之内甚次郎、其外庄屋・在役罷出候、

子五月十五日半天

一 藍作人数取調帳相認、当番郡見廻右田半藏方に差遣候、尤御用藍玉所宛書ニ而宿次を以差上候事、

子五月十八日半天

一 藍作いたし候者名前相記可申出旨、先達而申渡置候処、未其届無之候(早)早(申)申出候様被仰渡候間、去ル十五日爰許仕出ニ而御届申上候段申出候、

子五月十九日半天

一 年(命)御吊踊有之候処、此節御儉約被仰渡候ニ付、役者陳羽織之儀(是)是迄之通ニ而、以来相調候陳羽織(芭蕉類)芭蕉類ニ而相調筋吟味相決候、御地頭飯屋出役月番郷士年寄吉井宗太郎殿・郷士年

第三十二卷 第一号 九一

寄山之内休之進殿・内之浦七郎次殿・守屋彈正殿・与頭宮田十助殿・拙者・当番与頭市来連右衛門殿・横目兒玉権之助殿・吉田仁之助殿・兒嶋孫八殿・津曲仲右衛門殿・御地頭横目日高新左衛門殿・柏原伴之進殿ニ而候、

子五月廿一日半天

一 同役市来氏ハ当番頭リ置候処、歌上并歌次稽古指南詔山下彦一ハ申出候ニ付、右之趣ハれ清左衛門を以市来氏に申越候事、

子五月廿五日半天

一 前田村部下(筋)り分致借付方、利分を以同村賃取者辰方ハいたす筋ハ粗申談、現分相改候処、及千六百拾五貫〇九百廿武文。七百〇余帳面通相違無之候、出役地方檢者川上助五郎殿・郷士年寄内之浦七郎次殿・与頭拙者・郡見廻日高曾兵衛・取払日高直之丞・前田村庄屋郡山八左衛門ニ而候事、

子五月廿九日雨天

一 京都吉田殿内青山圖書之助殿右弟子美濃国福留丹治被召列、神道為講解今日始良ハ拙者所ニ着有之候、為案内社人河野权右衛門上之原迄遣置候、始良(頭取)□□名代とハ老人相付拙宅迄參候

事、

一 御地頭飯屋へ致出候(様九)□月番郷士年寄吉井宗太郎殿ハ通達有之、致出候候処、野崎村西(之九)川門甚蔵無行跡者ニ而先年嶋方居住之願申上、御免被仰付、居住いたし居候処、行跡立直帰參之願申上、御免被仰付、罷帰居候処、又候無行跡之儀有之、嶋方居住之願申上度、親類・与中之者共致内談折柄、致欠落居、此節度(々九)左邊田井内之浦邊に致徘徊、無行跡有之、波見村庄屋方ハ申出吟味之折柄、親類共承付、庄屋に相付取下之願申出候故、願通申付筋吟味相決候、出役月番郷士年寄吉井宗太郎殿・内之浦七郎次殿・与頭拙者・古郷士年寄市来平右衛門殿・大田彦次郎殿・横目吉田仁之助殿・津田仲右衛門殿・兒玉権之助殿・地頭横目柏原伴之進殿・日高新左衛門殿・口事方山下彦一殿・郡見廻日高曾兵衛・大窪郷八ニ而候事、

子六月朔日曇天

一 今朝市来氏ハ当番相請取、月番郷士年寄吉井宗太郎殿に届申出候事、

子六月三日半天

一 去月廿九日被差越候吉田殿御内青山圖書之助殿・美濃国福富

丹治今朝出立、京都に御帰ニ付、郷士社人成合平次郎相付、申  
良町迄遺候、右兩人と大坂天馬之竜田町吉田家出張所に御詰之  
由承候事、

子六月四日半天

一 前田村部下り分借り入方願認方并借り方願人数致取しらへ、  
地方検者衆迄入内見、取計筋<sup>(相扶)</sup>候、月番郷士年寄吉井宗太郎  
殿・郷士年寄山之内休之進殿・守屋彈正殿・掛与頭拙者・掛横  
目兒玉権之助殿・掛郡見廻日高曾兵衛・郡見廻右田半藏出会之  
事、

子六月七日半天

一 前田村部下り分諸人に借入方願書相認被差廻致印形候、地方  
検者川上助五郎殿・部下り方掛郷士年寄内之浦七郎次殿・郷士  
年寄吉井宗太郎殿・日高直助殿・山之内休之進殿・守屋彈正殿  
・掛与頭拙者・掛横目兒玉権之助殿・掛郡見廻日高曾兵衛・郡  
見廻右田半藏・大窪郷八連名ニ而候、

子六月十日半天

一 地頭仮屋土蔵<sup>(築力)</sup>前取放し戸前之簾子を切破り、格護分三拾貫  
文位も盜取候方ニ相見得候段、取払日高直之丞并番人小倉源右

大隅農村社会経済史料

衛門が今朝五ツ半時分申出、月番郷士年寄衆にも申出候段承候  
ニ付、直ニ地頭仮屋へ致出候処、月番郷士年寄衆も通達有之、  
役も出会之上土蔵致見分候得共、足掻并手掛不相見得、<sup>(分)</sup>  
方取払日高直之丞・矢神善左衛門に申付、拙者并横目兒玉権之  
助殿・津曲仲右衛門殿致見分候処、式拾七貫八百三拾九文被盜  
取候、横目兒嶋孫八殿・吉田仁之助兩人締方横目衆に被差越、  
残出役之儀も手分ニ而近邊走込改并郷士・町・新留村・前田村  
・社家不殘召寄、同土倉儀本為致候得共、不審之簾不相見、今  
晚都而暇差出申付、役もニ淺引取之事、

一 出役月番郷士年寄吉井宗太郎殿・郷士年寄内之浦七郎次殿・  
守屋彈正殿・山之内休之進殿・古郷士年寄吉井孫助殿・日高休  
左衛門殿・市来平右衛門殿・宇都宮蓮淨院殿・与頭宮田十助殿  
・拙者・横目兒玉権之助殿・津<sup>(曲)</sup>仲<sup>(右衛門)</sup>殿・地頭横目柏原伴  
之進殿・日高新左衛門殿・口事方山下彦一殿・野元八太郎殿・  
伊<sup>(東)</sup>佳納次殿・郡見廻右田半藏殿・日高曾兵衛殿ニ而候、

子六月十一日晴天

一 締方横目吉田七郎殿御差入有之、土蔵御見分之上穿鑿細く有  
之候得共、不審無之候、所出役昨日同断、吉井孫助殿・日高曾

第三十二卷 第一号 九三

兵衛殿出席無之候、

子六月十二日晴天

一 締方横目土持善八殿今日御差入有之、致見舞候、尤盜披露書相認被差廻致印形候、郷士年寄吉井宗太郎殿・山之内休之進殿

・与頭宮田氏・拙者連名ニ而候、

子六月十三日半天

一 惣郷士召寄御吊踊首尾能相濟候、

(同役宮田氏・拙者力)

出會、日

高氏事ニ病氣、市采氏事ニ鹿府留主ニ而候、

子六月廿一日半天

一 毎年二月模合方并惣掛方其外勘定之筈候、前年之覺書正月廿

九日限(返納力)

無之人ト二月ノ三割利相掛、取払方へ引付相渡、本口

立筈候、吟味之出役月番郷士年寄山之内休之進殿・内之浦七郎次

殿・守屋彈正殿・古郷士年寄日高休左衛門殿・吉井孫助殿・大

田彦次郎(殿)

与頭宮田氏(拙者)

横目吉田仁之助殿・兒玉権之

助殿・津曲仲(右衛)

門殿、地頭横目日高新(殿・日高力)

野元八太郎

半右衛門殿(伊東)

佳納次殿・山下彦(一殿)

安庭権左

衛門殿(二而候力)

子六月廿五日□天

一 宇都宮(真力)行院(罷出之)

下人甚八事氣任ニ有之、親類共(往為力)

折鑑願申出、座敷取拵召入置申含ニ而相捕申筈御座候得

共、親類共老人而已罷居、其身ト鎌致所持、暫ニ相放し不申、

捕方無覺束御座候間、所御加勢被仰付度段内、願之趣有之、左

候ハ、月番郷士年寄家ニ委細申出可被置候、拙者ニ淺後刻致相

談候上可為致加勢段申達置、月番月番(郷士年寄之)山之内休之進

殿宅へ罷出候処、折節横目兒玉権之助殿・津曲仲右衛門殿・地

頭横目柏原伴之進(召力)席ニ而及相談候処、氣任ニ有之、捕方無

覺束加勢之願申出候ニ付而(召力)捕異候而并親類

後田村新原門清左衛門・同村同門喜八三人名前相立、当村名主

召列、明廿六日九ツ時御地頭飯屋へ罷出候様、月番郷士年寄

衆ト被仰渡候、

□六月廿六日半天

一 後田村名主庄右衛門・親類同村新原門清左衛門・同村同門喜

八・宇都宮真行院雇入甚八

右人数御地頭飯屋(候力)罷出(候力)ニ付、拙者(候力)席之上、月番郷士(年)

寄山之内休(之進殿)宇都宮真行院(願之趣)

真行院方へ□  
兼親(頼力)与中之者共(之教力)訓不相用□

□相違無之哉□へ取斗大切之事候間、細し申出候様被仰聞候  
処、親類・与中之者共取扱不相成、氣任もの儀相違無御座、真  
行院方被申出候通相頼置為申儀相違無御座候、捕方被成下儀  
難有奉存候段、右之親類共申出候、捕方為致被相渡候処、今  
晩一夜所格護所借用仕度段又願申出被差免候、

子六月廿七日晴天

一 後田村之甚八事、今日親類(共力)が列帰候段承候事、

子七月朔日半天

一 今朝(宮田氏力)に当番次渡候事、

子七月九日晴天

一 当三月被仰渡候御儉約之趣意相守候様、所役し申談、内し所  
中に可申渡旨御地頭所が地頭横目○ニ付、柏原伴之進致參上承  
知候段、月番郷士年寄衆が相談有之、銘々支配頭に被申渡、向  
々支配頭が申渡筋内談之事、

一 所し申請候白塩消過分有之、所勞之折柄不可然事候ニ付、先  
年所格護之白塩消外ニ五拾斤模合方ニ而払置、□□ニ調練御  
見分杯□□合方いたす□□其外之白塩消と斤□□掛□取替払

大隅農村社会経済史料

来ル廿五□諸人に相払□吟味之事、

一 壹ヶ□二両度調練稽□塩消之儀と歳末・年頭之御祝儀と我

一 鹿府參上之節、合塩消拾斤惣掛手形申(請力)取入筈候、

一 出役月番郷士年寄山之内休之進殿・内之浦七郎次殿・古郷士  
年寄日高休左衛門殿・河保竜藏殿・与頭宮田氏・市来氏・拙  
者、横目兒玉権之助殿・津曲仲右衛門殿・兒嶋孫八殿・地頭横  
目柏原伴之進殿・日高新左衛門殿、口事方伊東佳納次殿・安庭  
権左衛門殿ニ而候、尤右ヶ条外吟味有之候得共、委不相記候、

子七月十五日晴天

一 今晚御燈炬掛に出会いたし候、月番郷士年寄内之浦七郎次殿  
・吉井宗太郎殿・山之内休之進殿、古郷士年寄吉井孫助殿、与  
頭宮田氏・市来氏・拙者、横目兒玉権之助殿ニ而候

子七月十六日晴天

一 調練稽古に出会いたし候、惣頭郷士年寄内之浦七郎次殿、鉄  
炮与与頭代安庭権左衛門、弓与与頭拙者、鎗与与頭代山下彦  
一、跡鉄炮与頭代日高六太郎、地頭横目柏原伴之進、

子七月十七日晴天

一 高須御藏修甫見賦と差越候、高山御話地方檢者川上助五郎

第三十二卷 第一号 九五

殿、郷士年寄代拙者、郡見廻加役小牧怒右衛門、竹木見廻代限元勘右衛門、宮下村庄屋吉田藤兵衛、野崎村・新留村・前田村・後田村之儀も都而在役共罷出候、

子七月十八日晴天

一 前田村榮勞見分とノ串良詰地方検者大河平源太左衛門殿昨日御差入ニ而、今日五ツ半時分（米之）部下り□掛都而致出会居候得共、高山詰地方検者川上助五郎□出会七ツ時分ニ相成、見分不相調候事、

子七月十九日晴天

一 前田村賃取者榮勞見分都而相濟候、地方検者大河平源太左衛門殿・川上助五郎殿、郷士年寄内之浦七郎次殿、与頭拙者、横目見玉権之助殿、郡見廻日高曾兵衛・庄屋郡山八左衛門、

子七月廿日半天

一 賃取者借状并主人証文見届候上、御届書認方有之候得共不相濟候、掛役之内見玉氏人出会無之候、

一 七ツ時分（米之）榮勞見分方暇いたし、同役当番宮田氏ニ而小普請帳書有之、彼方に出会いたし候、当番并拙者ニ而候、市来氏事ハ病氣ニ而出会無之候、取払兩人・書役守屋求馬・日高曾太

郎・二木鉄四郎罷出候、

子七月廿一日晴天

一 今朝榮勞見分方届書認方相濟候、尤地方検者兩人名前ニ而郡奉行に被差出候、左候而串良詰地方検者衆四ツ時御出立有之候、

一 小普請帳書不相濟候ニ付、同役当番方に致出会候、取払兩人・書役昨日同断、

子七月廿二日晴天

一 小普請帳書今日迄相濟候、当番宮田氏・拙者、取払矢神善左衛門・日高直之丞、書役守屋求馬・日高曾太郎・二木鉄四郎ニ而候事、

子七月廿三日曇晴天

一 宮田氏（帳脱力）が当番相受取、月番郷士年寄内之浦七郎次殿に届申出候事、

一 高帳載御免人数に御証文申渡有之候、月番郷士年寄衆・拙者ニ而候、

一 朝之間、小普請差出、印形取いたし、両当番出会ニ而候、  
一 昼、高帳引合いたし候、月番郷士年寄衆并守屋氏、与頭拙者

并宮田氏出會ニ而候、

子七月廿九日曇晴天

一 波見浦之小右衛門自舟商売とノ瀬戸内表(マ)ニ而出帆改之願申出、拙者当番ニ而候得共、差越名代相勤候様、月番郷士年寄内之浦七郎次殿津口被仰越差越相勤候、締方横目谷川蘇之助殿、波見。詰伊東九左衛門殿・横目津曲仲右衛門殿ニ而候、

子八月朔日曇晴天

一 出仕并宗門方御案書弘方有之候

一 鉄炮からくり致取揃方候、御場願与頭拙者・右々横目津曲仲右衛門殿・野廻リ上村勇助・野元八次郎、怖(怖)元方右衛門罷出候、尤作狩願書地頭飯屋ニ而仕出候、

一 締方横目谷川蘇之助殿尾之下茂助所声に今日串良が御宿移有之、致見舞候処、御蔵詰締方横目足谷四郎右衛門殿今晩野町茂平次所に御差入之段承、横目吉田仁之助殿・津曲仲右衛門殿同道ニ而致見舞候、横目兎玉権之助跡が被參候、

子八月三日半天

一 締方横目谷川蘇之助殿於地頭飯屋鉄炮切封被召入候、今日渡方迄相済候、

子八月四日雨天

一 締方横目土持善八殿尾之下佐太郎所に昨日串良が御宿移有之、致見舞候得共、留主ニ而不掛御目候、

子八月十三日晴天

一 締方横目谷川蘇之助殿・土持善八殿本城が今日野町に御移ニ而致見舞候、

子九月朔日雨天

一 日高氏に当番次渡候事、

一 尾之下詰地方檢者川上助五郎殿に致見舞候処、右同役大庭方吉殿被參居候事、

子九月九日晴天

一 異国方御建山御見分とノ御役、今日波見浦に御差入有之管候ニ付、相勤候様、掛同役日高氏が頼ニ付、差越候得共、御差入無之、拙者并横目吉田仁之助殿・行司峯崎源兵衛・竹木見廻日高休八・異国方建山山見廻家村利兵衛泊り候、

子九月十日晴天

一 唐船改千田喜兵衛殿・異国船掛書役若松次右衛門殿・山見廻大山四郎次殿、今朝御差入有之、直ニ内之浦に御越有之候ニ

付、所得、同道ニ而罷歸候事、

子九月十三日半天

一 野町覺兵衛事八月廿七日之夜土藏之内に有之品逢盜、段、手

寄を以相糺候折柄、後田村坂之上門三十并右男子權太郎品物格  
護いたし居候を承付、見届候処ニ、相違無之段申出候ニ付、右  
三十并男子權太郎糺方有之候処、右權太郎盜取、高崇寺之山に  
隠置、翌廿八日夜三十并權太郎二男市太郎<sup>(三)</sup>人ニ而相はこひ候  
段申出候、出役締方横目谷川蘇之助殿・齋藤助五郎殿・月番郷  
士年寄吉井宗太郎殿・内之浦七郎次殿、古郷士年寄河俣竜蔵殿  
・与頭日高八郎太殿・拙者、横目津曲仲右衛門殿・児嶋孫八殿  
・御地頭横目柏原伴之進・日高新左衛門、口事方野元八太郎・  
日高半右衛門・安庭権左衛門・右田半蔵ニ而候、

子九月十四日晴天

一 高須兩御藏御代官御条書拜聞と、差越候、郷士年寄代拙者、  
横目児嶋孫八殿、郡見廻右田半蔵、新留村庄屋児玉直十郎、前  
田村庄屋郡山八左衛門、

一 拜聞印形帳之儀、村、庄屋并名主耕作名前相立、右書いた  
し、郷士年寄・横目・郡見廻連名ニ而御代官に宛書いたし差出

候、尤庄屋不罷出在と郡山八左衛門名代名前相立候、

一 御代官市来六左衛門殿・書役上別府五右衛門殿ニ而候事、

子九月廿五日晴天

一 波見浦之新兵衛自船三慶丸当春徳之嶋登ニ而積付之儘、大坂  
御仕登被仰付罷登、帰帆之節及破船、三枚帆壹艘借入船を以罷  
下、改方之願申出、相改候処、不正之儀無之候、科人老人大坂  
御屋敷が被差下、宰領郷士二見竜之進に引渡候、町同心三次郎  
罷出候、締方横目谷川蘇之助殿・武元新右衛門殿、山方下目附  
川村甚兵衛殿・郷士年寄代拙者、横目児玉権之助殿ニ而候事、

子九月廿八日晴天

一 郷士方榮勞見分有之、拙者相勤候、締方横目齋藤助五郎殿・  
横目児嶋孫八殿ニ而候事、

子十月四日晴天

一 前田村<sup>(三)</sup>老<sup>(三)</sup>出良訴詔申出候もの共、榮勞見分として締方横目  
山城新左衛門殿被差越、拙者郷士年寄代相勤候、横目津曲仲右  
衛門殿被相勤候、今日前田村御見分不相濟候事、

子十月四日半天

一 今月前田村が宮下村・富山村榮勞御見分相濟候、出役同断、

子十月五日半天

一 御鳥見勤森甚五左衛門殿昨日和田之庄右衛門所に串良が御移之段、野廻り方が申出候ニ付、致見舞掛御目候、

子十月八日晴天

一 根極印藏方自付衆御差入有之候処、郷士年寄衆別働・病氣本ニ而差支之由ニ而致代勤候様申来候得共、拙者病ニ而步行不相調候ニ付、右之趣申越候処、外同役衆病氣之由ニ而、当番同役市来氏が可致代勤候間、罷帰迄之間、当番預り呉候様承り、今日が当番臥居ながら預り居候事、

子十月十四日晴天

一 今日迄当番預り居、暮時分相返候、

子十月廿七日晴天

一 御山奉行隈元(源之)之進殿・藏方目附山内猪之助殿・書役丸野平寛殿・山見廻林八郎右衛門殿、今日串良が波見浦に御差入ニ而、拙者郷士年寄代と相勤候、行司児玉善太郎・峯崎源兵衛・竹木見廻日高休八・永井休右衛門罷出候、

一 山奉行衆御旅宿新右衛門所ニ而、焼酎・蕎麦切差出候、

一 巴差枚下草弘見賦と始良詰地方検者衆今日後田村に御差入

有之候間、山方役宅人致暇、彼方に相勤候様月番郷士年寄衆が

申来、行司峯崎源兵衛差越候、

子十月廿八日晴天

一 山奉行衆其外、今朝刻波見浦出立ニ而内之浦に御越有之候、於中途狩方有之筈ニ而致手当差遣候、浦詰山方役都而致同道候、

一 宿に皆、荷物被召置候ニ付、盜并火用心本堅相守候様、浦役峯崎平八に申付置、拙者罷帰候事、

子十一月朔日晴天

一 高崇寺交代首尾相濟、一乘院に届申出候、郷士年寄代并与頭兼務ニ而拙者相勤候、横目津曲仲右衛門殿・書役兩人・触宅人召列候、檢僧串良が被參候事、

一 今日当番預り居候処、御鳥見衆犬山明日有之由ニ而、犬引三腰手当之段、野廻り方が申出候ニ付、手当いたし候様、ふれ次右衛門に申付候事、

子十一月四日晴天

一 波見浦之喜平次・万太郎・利八、自船内場廻出帆改之願申出、差越相改候処、不正之儀無之候ニ付、山川郷士年寄衆・横

目衆・浦役人衆宛書ニ而付状差遣候、郷士年寄代拙者并横目見

玉權之助殿・浦役峯崎平八連名ニ而候、締方横目川邊八次殿出  
会有之候、山方下目付川村甚兵衛殿事ニ病氣ニ而被相頼段致承  
知、締方横目衆にも右之趣申出置候、

子十一月七日晴天

一 山奉行隈元源之進殿・蔵方目付山内猪之助殿・書役丸野平寛  
殿・山見廻林八郎右衛門殿今日内之浦ノ波見浦に御移有之、燒  
酎・鹿飯差出候、郷士年寄代拙者・行司峯崎源兵衛・兒玉善太  
郎・竹木見廻日高休八・永井休右衛門相勤候、

子十一月八日晴天

一 今朝波見浦出立ニ而、平後蘭之上ノ溜池・城山に船材木并諸  
人申請御見分有之候得共、城山御見分不相濟候、直ニ野町に御  
移有之候、

子十一月九日半天

一 城山船材木并出跡御見分有之、諸人申請不相濟候、

子十一月十日半天

一 今日ノ片野に御移有之、御用狩御見分之筈ニ而致手当置候  
処、天氣不宜、休ニ而候間、明日ノ登山有之候様取計候事、

子十一月十一日晴天

一 今朝野町出立ニ而古弓場・外(堀丸)・永野之大谷に諸人申請并船  
材木御見分有之、直ニ片野に御移有之候、拙者并行司兩人相付  
居候、竹木見廻兩人野町に罷歸候、

子十一月十二日晴天

一 高野鹿倉ニ而御用狩御見分有之候得共、完取得無之候、与頭  
代富加見清八殿被參候、

子十一月十三日晴天

一 瀬戸宇治・大脇之邊諸人申請御見分有之、野町旅宿に御歸之  
事、

子十一月十四日晴天

一 今日首尾合いたし候得共、都而不相濟候事、

子十一月十五日晴天

一 今朝諸首尾合、木代良(銀)上納相濟、九ツ時分皆々爰許御出立ニ  
而始良之様御越有之候、

一 柏原下代衆宛書書付忝通隈元源之進殿ノ被レ渡候ニ付、拙者  
上封いたし飛札相付、村次レ相届候様、当番郡見廻右田半  
蔵方に申越候事、

一 限元源之進殿宛書書付壱通岩広蔵□□が被差越候得共、御

立跡ニ而□□拙者上封いたし、飛札相付、始良御旅宿に早<sub>レ</sub>相

届候様、当番郡見廻右田半蔵方に申越候、

子十一月十七日晴天

一 横目吉田仁之助殿・栢楮掛津曲休次郎代り役調方并池袋次郎

左衛門跡に守屋正次郎家跡養子願書に次書認方いたし候、当番

同役宮田十助殿・市来運右衛門殿・日高八郎大殿・拙者ニ而

候、

子十一月十八日晴天

一 富山村田方ニ而鉄炮打候者有之段相聞得、先達□野廻差入致

札方候得共、不相知。今日<sub>レ</sub>拙者并預り横目・野廻り同道ニ而

差越、中山詰御鳥見衆に右之趣申出候、

子十一月十九日晴天

一 走込改いたし手便を以細<sub>レ</sub>致札方候得共、不相知、聊止異差

入候聞得有之、是又致札方候処相誤候次第左之通、

一 富山村福留門名頭覚左衛門・右同村崎森門名子市太弟太郎、

右同村奥門名子善太郎男子袈裟太郎聊止異差入候段申出候、尤

明日出会之段、郷士年寄衆・郡見廻衆方に申越候、

子十一月廿日晴天

一 郷士年寄吉井氏出会有之、書物下書相認、御鳥見森甚五左衛

門殿に申出候処、近<sub>レ</sub>之内、於高山新留村之邊。致細札候間、

其内親類方へ預置候様致承知、右之趣申付置候、今晚麓之様罷

帰候、

子十一月廿二日曇天

一 波見浦之新右衛門自小船大坂下入津改之儀申出、役<sub>レ</sub>立会相

改候処、不正之儀無之候、締方横目齋藤助五郎殿・内之浦詰横

目浦廻動□□右衛門殿・郷士年寄代拙者・横目津曲仲右衛門

□□峯崎平八ニ而候、山下目付衆事□病氣之段□□右

人数ニ而相改候事、

子十一月廿六日晴天

一 宮□屋敷浮免高作職致□子□地方□地部下之願申出候

様、此節新留村庄屋鹿府参上之節、郡奉行衆<sub>レ</sub>口達を以被仰付、

今朝郷士・野町不殘御地頭飯屋に召寄、申渡有之候得共、年<sub>レ</sub>

禿入余高作職調兼候訳を以、是非御訴詔申上呉候様申出候事、

一月番郷士年寄内之浦氏・吉井氏、与頭宮田氏・日高氏・市来

氏・拙者、横目津曲仲右衛門殿・野廻り四人罷出、御場取締本

も申渡候、

一 当番宮田氏宅ニ而模合高代目銀致調方候、同役中不致出会、

取払兩人・書役老人罷出候、

一 御鳥見森甚五左衛門殿今日申良ノ野町之伊平次所に御移有之、見舞候事、

子十一月廿七日晴天

一 富山村畏聊止いたし候もの共、御地頭飯屋に召呼、御鳥見衆

細糺有之候、月番郷士年寄内之浦氏・吉井氏・拙者・預横目

□□郡見廻出会、地頭横目□□之事、

子十一月廿八日晴天

一 於野町畏聊止披露書物致認方候得共、不相濟候、吉井氏・拙者・津曲氏・野廻四人出会ニ而候、

一 昨廿七日御提飼方御役、申良池之原村に御差入ニ而、御鳥見

上野八太郎殿野町御鳥見旅宿に御越有之、掛御目候、今晚御帰

ニ而綱差休蔵相付差越候、

子十一月廿九日半天

一 串良池之原村詰御鳥見上野八太郎殿・御用部屋書役寄佐□□

小太郎殿・御鷹匠頭格草野仲左衛門殿御旅宿に致見舞候、兩種

持參、野町詰御鳥見衆并吉井氏・拙者・津曲氏・野廻四人同道之事、

子十一月晦日晴天

一 宮之城浮免高作職不相調候ニ付、役ノ吟味之□□御訴詔近

日中郡見廻右田半蔵出□筋相決候、月番郷士年寄内之浦氏・吉

井氏・守屋氏・古(郷士年寄)宇都宮氏・与頭宮田氏・市来氏・拙者、

横目(児)□□玉氏・児嶋氏・地頭横目日高氏・口事方野元八太郎・日

高半右衛門・山下彦一・(安殿)□□権左衛門・郡見廻右田半蔵・日高

曾兵衛・御地頭飯屋に出会之事、

一 畏聊止披露書物清書相濟候、十二月七日日付ニ而調置候事、

子十二月朔日半天

一 宮田氏ノ当番相受取、月番郷士年寄内之浦七郎次殿に届申出候、

一 高山家督永野氏病死ニ付、都之城盲僧西ヶ野氏に家督御免有

之、於地頭飯屋郷士年寄・与頭・両横目に祝差出候、

子十二月二日晴天

一 御鳥見勤森甚五左衛門殿申良岡崎に御移之段、野廻方ノ申

出、野町旅宿伊平次所に差越候処、吉井氏并野廻不殘參居候、

津曲氏事々跡ニ被參候、作狩免許受置(候力)事、

子十二月(十一力)□日半天

一 年七拾斗之女

右者野崎村津□之内に物貫躰と相見得、行倒相果居候段、昨日庄屋方(ものた)が申出、今日死躰致見分候処、疵付本無之、見当候□(ものた)并近方致亂方候得共不審之□(廉)不相見得、成行御地頭所に御披露申上著候、尤近郷相尋之上在所相知候ハ、早速可申上段相加、申上筋吟味いたし候、締方横目山城新左衛門殿・始良横目石田武右衛門殿・郷士年寄内之浦七郎次殿・与頭市来氏・拙者・横目児嶋孫八殿・児玉権之助殿・津曲仲右衛門殿・地頭横目日高新左衛門殿・郡見廻加役小牧恕右衛門・書役山内甚次郎ニ而候、

子十二月十三日晴天

一 (前田村力)部下り取揚米取納有之候得共、拙者(出力)□会不相叶段、頼越候事、

子十二月十四日曇天

一 右(部下米力)取納と御地頭飯屋に致出会候、地方檢者川上助五郎殿・掛郷士年寄衆并拙者・掛横目・掛郡見廻ニ而今日迄取納之分々相濟候、

大隅農村社会經濟史料

子十二月十六日晴天

一 右同断、帳面首尾いたし候得共、不相濟候、出役地方檢者衆・掛郷士年寄衆・拙者・掛郡見廻ニ而候、

一 金子六両貳步二朱

右者町周助(横力)米代と致取納候得共、夜入候故、明日□入付之筈ニ而掛郡見廻日高曾兵衛預り被居候、

子十二月十七日晴天

一 右同断、帳面首尾と御地頭飯屋へ致出会、今日迄相濟候、地方檢者衆并掛役不殘、庄屋・在役罷出候、

一 金子六両貳步二朱今日日高曾兵衛致持參、右之内三両貳步前田村諸払と相渡、残り三兩二朱御飯屋土蔵錢櫃之内金子入箱之上三紙包ニ地方檢者川上助五郎殿封印ニ而入置候、

子十二月廿□日晴天

一 前田村部下り取揚米申請之願、野町周助が申出候ニ付、別紙願書相認、掛郷士年寄衆が被差廻致印形候、掛役連名ニ而郡奉行見習東郷一介殿宛書ニ而候、

子十一月廿三日晴天

一 締子横目松崎平左衛門殿今日野町伊三次所に御差入ニ而致見

舞候、同役宮田氏并横目津曲仲右衛門殿見舞有之候事、

十二月廿九日晴天

一 市来氏（江）今朝当番次渡候事、

一 二丸御統料掛横目南郷覚太郎殿内蘭之権八所に御差入有之、  
致見舞候事、

〔後記〕

校訂にあたっては、守屋雄次郎氏・守屋泰造氏・守屋貞子氏・日高栄子氏はじめ高山町の多くの方々から種々の御配慮をいただき、また原口虎雄氏からは御教示を得た。紙上を借りて厚く感謝の意を表す。